



*High performance. Delivered.*

**「平成29年度輸出戦略実行事業」  
コメ主要輸出先国におけるターゲットチャネル分析報告書**

2018年3月  
アクセンチュア株式会社

## 背景

- 2019年のコメ・コメ加工品の輸出額600億円達成に向け、注力すべきターゲットを明確にした上での集中的なプロモーションが必須
- これまでの検討等を通じた仮説として、海外展開済日系外食チェーンが有望ターゲット

## 目的

- 輸出上位国において、有望ターゲットと考えられる日系外食中心に、どのセグメントにどれだけ日本産米が使われ、拡大余地があるかを定量的に明らかにする
- その上で、日本産米取扱拡大にあたっての課題とその解決策、及びその他要望について取りまとめ、今後の日本産米取扱拡大に向けた施策を検討する

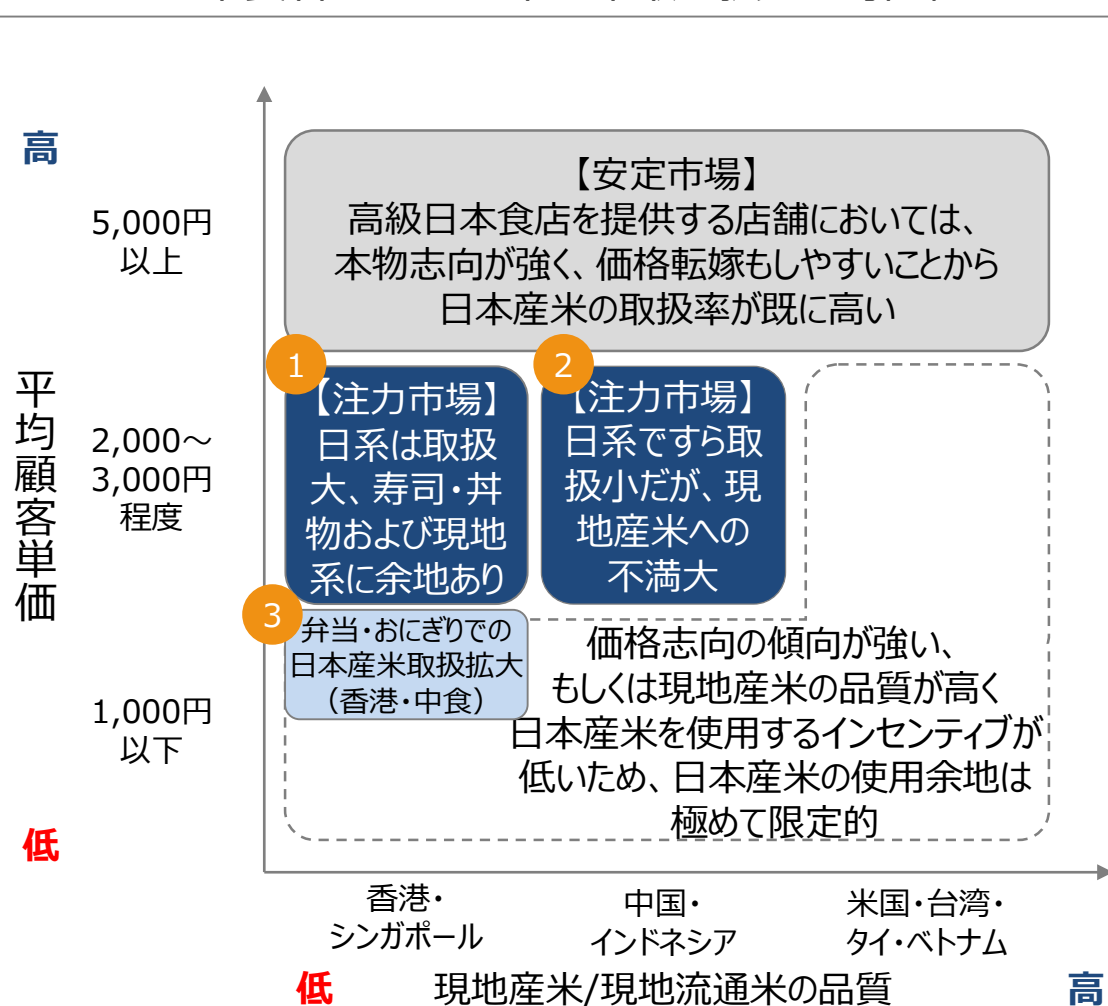
## 調査手法

- 輸出上位5カ国(香港・シンガポール・台湾・米国・中国)のコメ市場に関するレポート・公知情報等を基に、日本産米の消費状況をセグメント別（日本人/現地人×内食/中食/外食）に推計
  - 2016年のコメの輸出入量・生産量・消費量、人口（日本人/現地人）コメの種類別消費量（ジャポニカ/インディカ）、外食店で使用しているコメの原価等をパラメータとして使用
- 海外に展開している日系外食チェーンに対象としたヒアリングを通じ、日本産米取扱に関する課題・要望を整理

- 主要5カ国において、日本産米は外食において消費されていると考えられる
  - 国・地域に限らず、客単価が高い高級日本食店の日本産米取扱割合は高いが、市場規模は小さい
  - 香港・シンガポールにおいては、主に価格帯が2,000～3,000円程度の日系中級日本食店が日本産米消費のボリュームゾーン
    - ✓ 一方、価格帯に限らず、寿司や丼物、カレー等のメニューを扱う事業者では日本産米取扱率が低い。丼物専用米のようなメニューに合うコメ・調理方法の提案による事業者への取扱意欲の刺激等が必要ではないか
    - ✓ 現在、日本産米の取扱率が低いものの、規模の大きい現地系中級日本食店は市場として有望であり、ニーズを把握した上で、今後の販路拡大に取組むべきではないか
  - 現在、中国・インドネシアにおいては、日系中級日本食店で日本産米取扱いは少ないものの、現在使用している現地産米に対して品質の不满を感じる外食事業者が一定数存在しており、価格・規制緩和次第では日本産米の取扱の可能性があるのでないか
  - 手頃な価格で品質のよい現地産米が調達可能な台湾・米国・タイ・ベトナムにおいては、日系中級日本食店ですら日本産米取扱は少ない
- 香港の日系小売にて、弁当・おにぎりでの日本産米の取扱を確認。外食事業者が指摘する「時間が経って、冷めても美味しい」という日本産米の強みとも合致
- 国・地域に限らず、日本産米取扱上の課題は「価格」・「輸出手続」が中心。生産コストの低減による価格低下を求める声が多い。混載輸送の大ロット化による物流コストの低減に向けた取組推進要望や米穀輸出手続書類の簡略化要望等があがった

日本食店での消費を通じた日本産米の輸出拡大には、①香港・シンガポールにおける寿司・丼物等のメニューを提供する事業者・現地系日本食店向けの販路拡大、②中国・インドネシアにおける日系中級日本食店での日本産米使用率拡大に関する取組が必要。

日本食店における日本産米取扱拡大の可能性



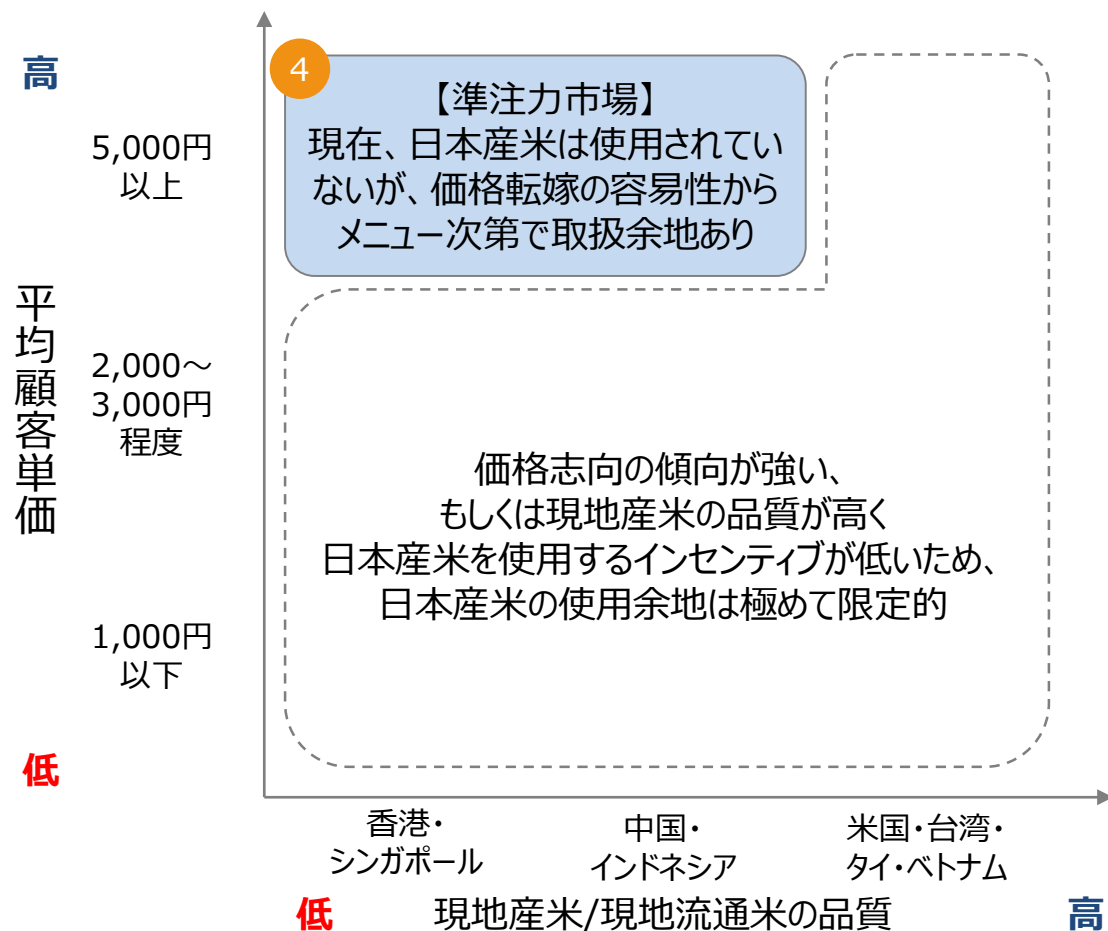
注力市場と講じるべき施策の方向性

- 1 【中級店/香港・シンガポール市場：注力】  
→ 寿司・丼物などコメに味をつけるメニューに合う日本産米・炊飯方法の提案  
→ 現地系日本食店へのニーズ把握も兼ねた販路拡大  
→ 日系日本食店の店舗数拡大支援
  - 2 【中級店/中国・インドネシア市場：注力】  
→ 日本産米の価格低減と合わせた、日系中級日本食店への売り込みを通じた日本産米の使用率の増加  
→ (輸出環境課題の解決)
  - 3 【中食/香港：準注力】  
→ 「冷めても美味しい」といった日本産米の強みを生かした、弁当・おにぎりでの日本産米の取扱の拡大
- 【高価格帯/各国共通市場：安定】  
→ 既存市場を維持し、日本産米の安定的な消費を継続

## 中華料理等現地料理の高級店に対して、日本産米を使用した現地料理メニューの開発・提案が必要。

現地料理店における日本産米取扱拡大の可能性

有望市場と講じるべき施策の方向性



**4** 【高価格帯/各国共通市場：準注力】

- 高価格の現地料理店における日本産米ニーズの発掘・日本産米を活用した現地料理メニューの開発
- 《参考》国内高級中華料理店において、チャーハンに合うコメとして北海道産の「きらら397」を紹介・使用している例が存在

# 海外展開済み日系外食事業者における日本産米取扱に関する全般的な課題と取組（案）

日系外食事業者における日本産米取扱に関する課題	取組（案）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>現地産米の取扱業者が、炊きあがり・調味料とのマッチングを含めた提案を行ってくれる</b>ので、取引先を変えづらい</li> <li>• 高価格帯のものが中心で、<b>幅広に低価格のコメも含めた商品ラインナップ</b>が欲しい</li> </ul>	<p>商品ラインナップ 多様化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 外食事業者に向けたメニューに合わせた炊飯方法・調味料・専用米（寿司米・カレー用米等・丼物用米）の開発・提案</li> <li>• 様々な外食事業者に向けた、多様な価格帯のコメの輸出推進</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 水質・電圧等の影響で日本で炊飯するものと同品質を維持するのが困難。美味しく炊飯する方法を教えてほしい</li> <li>• 近年、<b>カリフォルニア米やタイ産日本種米等の他国産米の品質が向上</b>しており、日本産米との差別化が困難になりつつある</li> </ul>	<p>プロモーション 上の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 海外で日本産米をより美味しく炊くための水質・水加減等の情報共有</li> <li>• 日本産米の強み「冷めても美味しい」、「日本と寿司のイメージ」を生かしたメニューと合わせた差別化</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 長距離輸送や温度帯の問題で著しく品質劣化する場合があります、<b>冷蔵保存や現地精米等の適切な品質管理が必要</b></li> </ul>	<p>品質管理 強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現地精米・冷蔵保管庫等の施設整備</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• コメの原価が高く、その上輸送費・手数料・関税が上積みされるため、価格転嫁が困難な業態・エリアでは取扱が難しい。まずは<b>コメの原価の低減が必要</b></li> <li>• 輸用量が少なく<b>混載輸送が中心</b>であり、多品目を混載しているため、通関で<b>コンテナが停止するリスクが高い</b>。輸送費を低減するためにも<b>コンテナ単位での輸出が必要</b>。一方で、一社のみではコンテナを満載にすることは難しい</li> <li>• 特に、中国・韓国においては関税が高く、価格が高くなってしまふ</li> </ul>	<p>コスト低減</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 生産コストの低減</li> <li>• 商社・外食事業者が主体となった輸出取りまとめ・日本産米輸出の大ロット化による輸送コストの低減</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 直接輸出を行う、外食事業者にとっては、<b>穀物輸出届を始めとする各種手続書類を輸出の度に作成するのが社内決済も含めて負担</b>となっている</li> <li>• <b>中国・インドネシアでは検疫等による輸入規制が厳しく輸出が困難</b></li> <li>• 輸入枠の割当が必要で、輸入枠を持つ事業者が限定される</li> </ul>	<p>規制・手続 簡略化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 穀物輸出届等の輸出手続の簡略化</li> <li>• 混載輸送が多い外食事業者の輸出負担軽減に向けた輸出用書類の対応ワンストップ窓口の整備</li> </ul>

## 【店舗展開関連】

- 香港やシンガポール等で現地系の日本食店が増加しており、日系の日本食店が目立ち辛くなっている。日本産食材サポーター店制度の普及・浸透など、日本発の日本食店を目立ちやすくして頂けるとありがたい（定食チェーン）
- 日本産米を使用する日系外食店を海外に急速に展開するには、フランチャイズでの出店を進めるのが望ましく、そのためには信頼できるパートナーを現地で見つける必要があり、マッチングの支援があると望ましい（定食チェーン）

## 【調達関連】

- コメの需給に関して、輸出への取組も重要であると理解しているが、昨今の業務用米の供給不足を受けて価格が高騰している。国内の業務用米の需給バランスに関しても、関心を向けて頂きたい（丼物チェーン）
- 海外展開を始めた頃、コメの品質管理に関する知見が不足しており、常温輸送した結果、カビが生える等の品質事故が生じ、廃棄することになった。こうした情報共有の仕組みがあると望ましい（定食チェーン）

## 【食習慣関連】

- 海外ではコメそのものを味わう食文化が存在しない。白米にドレッシングやソースをかけて食べる消費者がいるなど、日本産米の味の良さを訴求することが難しい。白米で食べても美味しいということを教育していく必要があるのではないか（定食・丼物チェーン）
- 中国・韓国においては、原発事故以降、放射能汚染を懸念する意識が強く、当該2カ国においては、日本産米に対するイメージが現地産米よりも悪い場合もある（寿司チェーン）

事業者名	業態・顧客層	日本産米の使用状況	日本産米取扱の課題
A社	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アジアを中心に高級路線でのブランド店を海外展開（高級感を出すために和を強調した内装）</li> <li>• 中間層・富裕層を対象とし、「日本発」にこだわった日本食を提供</li> <li>• 高価格帯チェーン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>香港のみ、日本産米を使用</b>。国内で精米したコメを輸出している</li> <li>• 今後も「日本の味」を海外に届けることを会社の方針としているため、日本産米を継続使用する予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コメの価格が他国産米に比べ高いことに加え、冷蔵輸送によるコスト等が調達上の負担となっている</li> <li>• 輸出の頻度が高いこともあり、輸出関連の複雑な手続が人的負担となっている</li> </ul>
B社	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アジアを中心に米国にも、国内よりも高級ブランドとして海外展開</li> <li>• 中間層・富裕層を対象とし、日本と同等の品質にこだわった日本食を提供。一部ローカライズしたメニューも存在</li> <li>• 高価格帯チェーン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>香港・シンガポールのみ、日本産米を使用</b>。日本国内で精米したコメを海外に輸出している</li> <li>• 品質のよい現地産米が流通している国では、現地産米を使用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• インドネシア・ベトナム・タイ等のコメの生産国を中心に、コメの輸入規制が強く、日本産米を使用できない地域が存在する</li> <li>• 日本産米を使用する店舗を拡大するためには、現地でFC店を展開するための信頼できるパートナーとのマッチングが必要</li> </ul>
C社	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アジアを中心に国内同様、比較的高級チェーンとして海外展開</li> <li>• 中間層・富裕層を対象とし、日本同様のメニューを提供。一部、ローカライズしたメニューも提供</li> <li>• 高価格帯チェーン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>香港・シンガポールのみ、日本産米を使用</b>。玄米で輸出し、現地精米を行っている</li> <li>• 出来る限り日本産米を使用したいと考えているが、品質のよい現地産米が流通している国、客単価の都合上価格転嫁できない国での使用は困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 海外で調達可能な日本産米は高価なものが中心であるが、事業者としては、様々な価格帯のコメが供給されるのが望ましい</li> <li>• 日本産米を取りまとめ、リスクをとって輸出する事業者・取組があると望ましい。外食事業者として輸入リスクを負うのは大きな負担となる</li> </ul>



事業者名	業態・顧客層	他国産米の使用状況・理由	日本産米の取扱意向
D社	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 東南アジアを中心に日本と同様のブランドで海外展開（出店先の国ではコメ食文化もあり今後発展する市場との認識）</li> <li>• 中間層を対象として、日本と同じメニューに加え、ローカライズしたメニューも提供</li> <li>• 低価格チェーン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現地産米を使用                             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 現地産米の品質が十分でない国もあるとの認識</li> </ul> </li> <li>• 日本発の丼物を高級品ではなく、日常食として提供できるように、価格を抑えて提供することが会社の方針であるため</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現時点では、価格が見合わないため日本産米を使用していない</li> <li>• 現在の日本産米は価格が高すぎて使用を検討できない。他国産米に比べ、少し高い程度であれば、ブレンド米としての使用や新規出店国での使用を検討できる</li> </ul>
E社	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アジアを中心に日本と同様のブランドで海外展開</li> <li>• 中間層・低所得者層を対象とし、手頃な価格で食べられる揚げ物を提供</li> <li>• 低価格チェーン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現地産米を使用</li> <li>• リーズナブルな価格で揚げ物を提供することが会社の方針である。いくら日本産米の品質が高くとも、価格の高い日本産米を使用することで、価格が上がるを顧客は望んでいないため</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 価格が現地産米と同程度でなければ日本産米を扱うことは難しい</li> <li>• コメの鮮度を重視しており、週次で精米・供給をしている。日本産米を使用する場合は現地精米が必要となるが、その分さらにコストが上乘せされることが懸念される</li> </ul>
F社	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アジア・米国を中心に日本と同様のブランドで海外展開</li> <li>• 中間層・低所得者層を対象とし、手頃な価格で食べられる丼物を提供</li> <li>• 低価格チェーン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現地産米を使用</li> <li>• 海外では「日本発」ということをブランドメッセージとして発信しておらず、リーズナブルな価格でメニューを提供することが当社の方針であるため、敢えて高価な日本産米を使用する理由はないため</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 価格が現地産米と同程度でなければ日本産米を扱うことは難しい                             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ふやけにくい、硬い食感のコメを中心に使用</li> </ul> </li> </ul>

事業者名	業態・顧客層	他国産米の使用状況・理由	日本産米の取扱意向
G社	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア・北米を中心に日本と同様のブランドで海外展開</li> <li>中価格チェーン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地産米を使用                             <ul style="list-style-type: none"> <li>中国・韓国産米で十分な品質が担保されている</li> </ul> </li> <li>現地の日系コメ卸売業者による綿密な炊飯テストや現地従業員に向けたコメの歴史・成分についての研修等、サービスが行き届いている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同価格であれば日本産米の方が美味しいので使用してもよいが、価格が2倍なので、検討も困難                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ただし、中国・韓国では放射能汚染に対する意識が強いため、日本産米というプロモーションが裏目に出る可能性もある</li> </ul> </li> </ul>
H社	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジアを中心に日本と同様のブランドで海外展開</li> <li>中価格チェーン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地産米を使用</li> <li>価格志向のチェーン店であるため、価格転嫁をすることが難しく、安価である程度の品質がある現地産米で十分</li> <li>精米頻度や保管状況に関してはあまり取組んでおらず、浸水時間等の炊飯方法の研究に注力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同価格であれば美味しい日本産米を使用したいが、現実的には困難である。日本産米は価格が高いため、導入を検討したこともない</li> </ul>
I社	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア・北米を中心にレストランチェーンとして海外展開</li> <li>中間層～富裕層のグループ客を対象とし、国内よりも内装にこだわり、多様なメニューを提供</li> <li>高価格チェーン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地産米を使用</li> <li>提供メニューの特性上、コメの味の差が分かりづらく、ある程度の品質のコメであれば十分美味しく食べられるため、価格の高い日本産米を使用する必要性を感じていないから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同価格であれば日本産米を使用するが、少しでも価格が高ければ安価な現地産米を使用したい</li> <li>メニュー専用米等の必要性も特に感じておらず、日本人が食べて美味しいと感じるコメを現地産米の中から探して使用している</li> </ul>

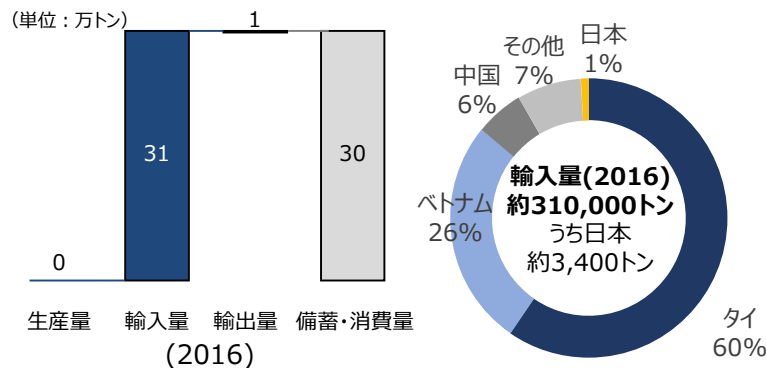
## 《参考》 外食事業者による現地産米の評価

	事業者による現地産米の評価	主な品種	価格帯	備考	
高評価	台湾	<ul style="list-style-type: none"> <li>池上米等のブランド米が生産されるなど、日本産米に近い品質のコメが生産されており、総じて、品質が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短粒種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100円～200円/kg</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>台湾政府として自国産米の消費奨励を行っており、モスバーガー等の外食事業者が自国産米の使用をPRしている</li> </ul>
	アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>炊飯後時間がたっても、つやや甘みが失われにくく、価格が手ごろで使用しやすい</li> <li>保存状態が悪いため、コメの品質が劣化している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かがやき</li> <li>短粒種</li> <li>中粒種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100円～200円/kg</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメ食文化をもつメキシコ系住民が居住する西海岸を中心にコメが消費されている</li> </ul>
	タイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>食味が良く、価格が手ごろで使用しやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あきたこまち</li> <li>短粒種(日本種米以外)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100円～130円/kg</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメ生産技術の伝播により、高品質な短粒種の生産が拡大している</li> </ul>
	ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> <li>食味が良く、価格が手ごろで使用しやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あきたこまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100円～200円/kg</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメ生産技術の伝播により、高品質な短粒種の生産が拡大している</li> </ul>
中評価	中国	<ul style="list-style-type: none"> <li>時期によって品質にばらつきがあるため、サンプル品等をチェックする必要がある</li> <li>旨味が少なく、日本産米の6～7割の大きさ</li> <li>近年、コメの品質が向上している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あきたこまち</li> <li>由来のコメ</li> <li>日本種米</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100円～160円/kg</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸入規制が厳しく、関税が高いため、現地産米の利用が中心</li> </ul>
	フィリピン	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメ食文化が根付いていることもあり、品質の良いコメが調達可能</li> <li>安価で品質のよいコメが調達できず、高価な現地産コシヒカリを使用せざるをえない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コシヒカリ</li> <li>コシヒカリ系</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100円～340円/kg</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメ食文化があり、一日当たりのコメ消費量が多く、生産国でありながらコメを輸入している</li> </ul>
低評価	インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>甘みが少ない等食味が悪く、粘り気が足りないため、もち米を混ぜて炊飯する場合もある</li> <li>精米後のコメにゴミが混じっていることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かがやき</li> <li>中粒種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100円/kg</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地産米の品質が低い、輸入規制が厳しく、現地産米以外の選択肢がない</li> </ul>

## 《参考》 提供メニュー別コメの取り扱い状況

メニュー分類	1店舗当たりコメ消費量	使用しているコメの特徴	日本産米の使用状況・可能性
定食	<p><b>0.8t/月</b> 客の回転率が低く、 1食当たりのコメ 消費量が少ない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コメを白米として食べるメニューであること、客単価が比較的高いことから高品質なコメを求める傾向がある</li> <li>• 精米方法・精米頻度・保存環境(冷蔵保存)を重視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一部チェーンの一部の国で日本産米を使用</li> <li>• 香港やシンガポール等のコメの生産が行われておらず、購買力単価の高い国を中心に日本産米が使用されている</li> </ul>
丼物	<p><b>1t~/月</b> 客の回転率が高く、 1食当たりのコメ 消費量が多い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• たれやつゆをかけて食べるため、硬くて水分を吸収しづらくふやけにくいのが好まれる傾向がある</li> <li>• 低価格チェーンの業態が多く、コメに関して価格志向のチェーンが多い</li> <li>• 炊飯方法、精米頻度を重視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本産米の取り扱いチェーンなし</li> <li>• 価格志向の傾向が強く、価格の高い日本産米の使用については検討さえも行っていない。現地価格と同程度の価格であれば使用を検討するという事業者も存在</li> </ul>
寿司・カレー	<p><b>1t/月</b> 客の回転率が低く、 1食当たりのコメ 消費量が多い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 食酢・調味料・カレールーによってコメに味付けするメニューであり、コメそのものの品質をカバーできるため、一部の高級店を除き、コメに関しては価格志向のチェーンが多い</li> <li>• 炊飯方法・調味料との相性を重視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本産米の取り扱いチェーンなし</li> <li>• コメよりも他の食材の品質に対するプライオリティが高く、一部の高級店を除き日本産米の取扱いは困難</li> <li>• 寿司・カレー専用米等の高付加価値米よりも安価なコメの需要が高い</li> </ul>

### 香港コメ市場概要



- 年間のコメ備蓄・消費は30万トン。ほぼ100%を輸入に依存。主にタイ、ベトナムからインディカ米を輸入。日本からの輸入は約3,400トンで、シェアは1%程度

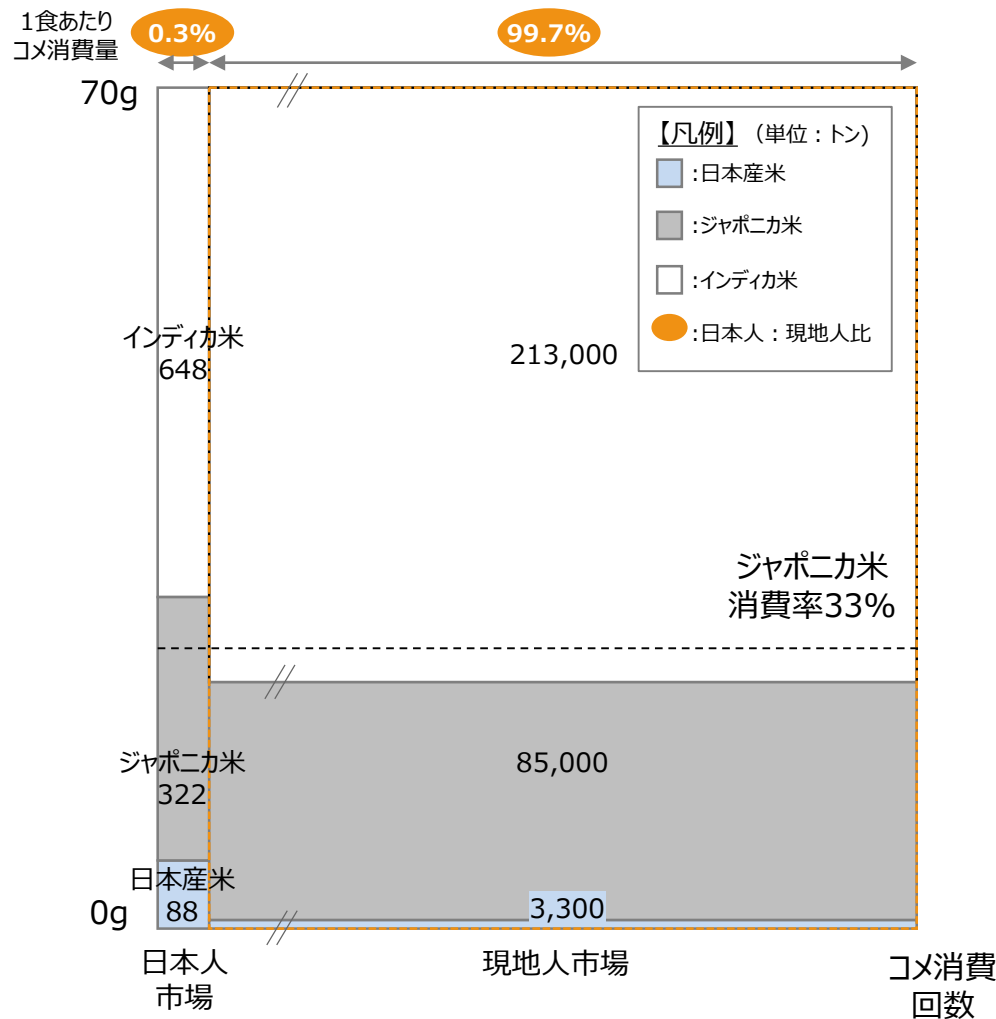
### 食習慣

- ジャポニカ米・インディカ米比率 = 33:67
  - 中国からの物流が途絶えた時期にタイ等からインディカ米を輸入した結果、調理法が開発され、インディカ米が主食として定着
- 外食・内食比率 = 80:20
  - 国土が小さく、十分なキッチンスペースがない  
小さい家が多いため、外食中心の食生活

### 外食・小売における日本産米の取扱

- 【小売】
- 百貨店や高級スーパー等で販売されている。主に日本人駐在員、現地富裕層が購入。現地人は日常食の他、パーティー用の寿司を作るために購入
- 【外食】
- 日系高級・中級外食店(客単価2,000円以上)での取扱が中心 (日系外食事業者ヒアリング)

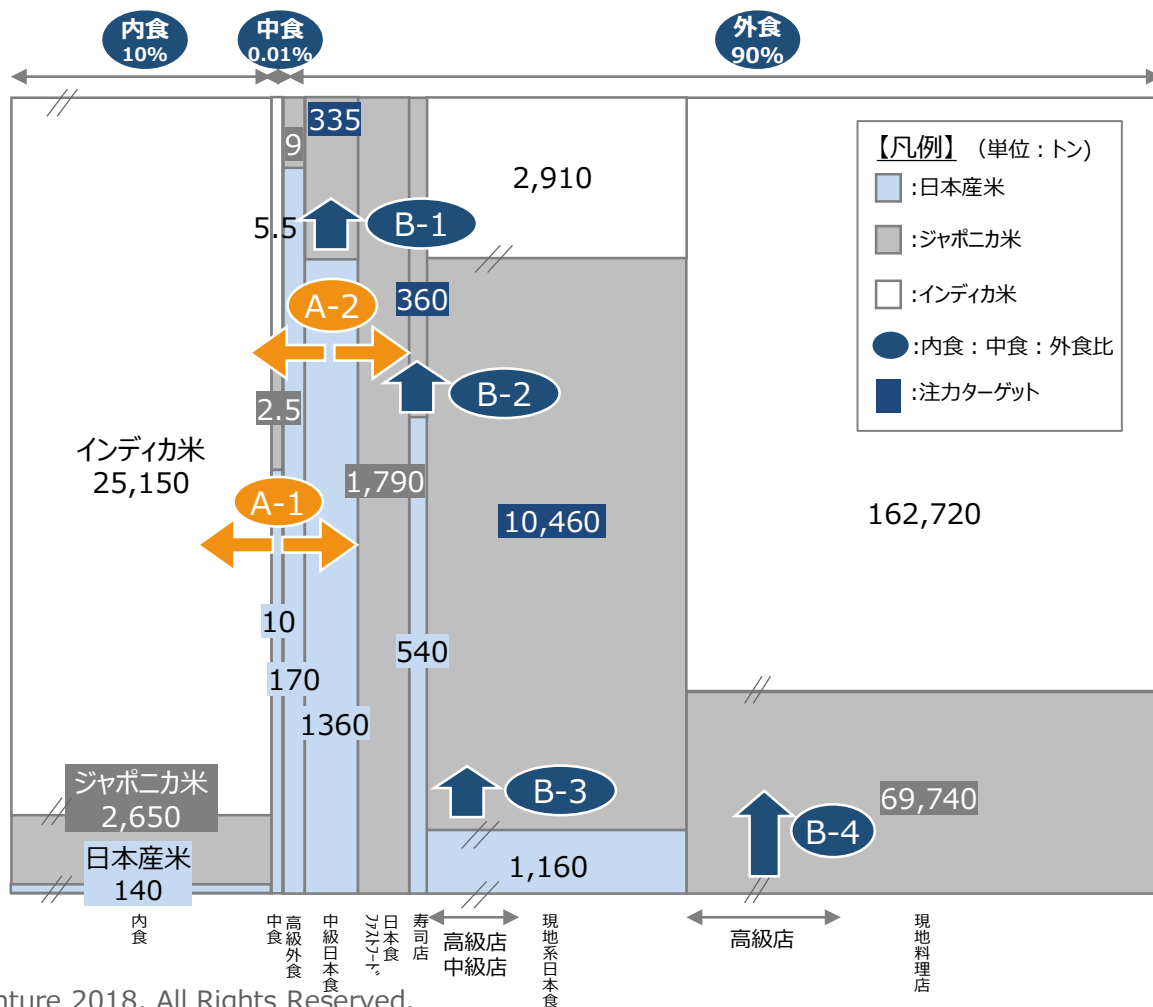
### 香港におけるコメ消費動向推計(2016)



日本産米の輸出拡大に向けては、市場規模の大きい、現地人市場の拡大に優先して取組むべき  
→現地人市場について次ページにて詳細化

# A. 中級日本食店の店舗数・弁当、おにぎり等の中食需要の拡大及び、B. 寿司・丼物などの日本食店・中級日本食店・現地系日本食店で日本産米取扱率の拡大を検討するのが望ましいと考えられる。

香港現地人コメ消費動向推計(2016)



## A. 日本産米取扱店舗の拡大

- A-1** 【小売と連携した中食需要の拡大】(準注力)
  - 「冷めても美味しい」といった日本産米の強みを生かした、弁当・おにぎりでの日本産米の取扱の拡大
- A-2** 【日系中級外食店の店舗拡大】(注力)
  - 日本産米の取扱率が高く、店舗数が多い、日系中級外食店の店舗数拡大

## B. 日本産米取扱率の増加

- B-1** 【専用米の開発による使用拡大】(注力)
- B-3**
  - 寿司や丼物等の日本産米の取扱率が低い外食店でのメニューに合うコメ・炊飯方法の提案等を通じた日本産米のプロモーション
  - 【現地系日本食店で使用拡大】(注力) 日本産米の取扱率が低い、現地系高級日本食店への売込による取扱拡大
- B-4** 【高級現地料理店での使用拡大】(準注力)
  - 日本産米を活用した現地料理メニューの開発等を通じた取扱拡大

# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_香港 (1/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	香港人	単位
				値	値	
全体	日本産米消費量	A	$D+Q+AF$	88	3,360	t/年
	ジャポニカ米消費量	B	$E+R+AG$	405	88,702	t/年
	コメ消費量	C	$F+S+AH$	886	279,475	t/年
内食	内食日本産米消費量	D	$E*P$	56,766	139,695	kg/年
	内食ジャポニカ米消費量	E	$F*O$	94,609	2,793,893	kg/年
	内食コメ消費量	F	$G*N$	105,122	27,938,925	kg/年
	コメ内食コメ消費回数	G	$H*M$	1,501,738	399,127,500	回/年
	内食回数	H	$I*J*K*L$	3,003,476	798,255,000	回/年
	人口	I	-	27,429	7,290,000	人
	1日あたり食事回数	J	-	3	3	回/日
	内食率	K	-	10%	10%	%
	年換算	L	-	365	365	日/年
	内食1回あたりコメ消費率	M	-	50%	50%	kg
	1回あたり内食コメ消費量	N	-	0.070	0.070	kg
	内食ジャポニカ米比率	O	-	90%	10%	%
	内食日本産米率	P	-	60%	5%	%
	中食	中食日本産米消費量	Q	$R*AB$	389	10,326
中食ジャポニカ米消費量		R	$S*AC$	486	12,908	kg/年
中食コメ消費量		S	$U*AD$	694	18,440	kg/年
中食コメ消費回数		U	$V*AB$	9,911	263,424	回
中食消費回数		V	$W*X*Y*Z$	30,035	798,255	回/年
人口		W	-	27,429	7,290,000	人
1日あたり食事回数		X	-	3	3	回/日
中食率		Y	-	0.1%	0.01%	回/日
年換算		Z	-	365	365	日/年
中食コメ消費率		AB	-	33%	33%	%
中食1つあたりコメ量		AC	-	0.070	0.070	kg
中食ジャポニカ米比率		AD	-	70%	70%	%
中食日本産米比率		AE	-	80%	80%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_香港 (2/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	香港人	単位
				値	値	
外食	外食日本産米消費量	AF	AI+AX+BN+CC+CR+DG	30,948	3,209,624	kg/年
	外食ジャポニカ米消費量	AG	AJ+AY+BO+CD+CS+DH	310,319	85,895,431	kg/年
	外食コメ消費量	AH	AK+BA+BP+CE+CT+DI	780,423	25151737842.0%	kg/年
	高級日本食レストラン日本産米消費量	AI	AJ*AW	6,391	169,869	kg/年
	高級日本食レストランジャポニカ米消費量消費量	AJ	AK*AV	6,728	178,809	kg/年
	高級日本食レストランコメ消費量	AK	AL*AV	6,728	178,809	kg/年
	高級日本食レストランコメ消費回数	AL	AM*AU	96,111	2,554,416	回/年
	高級日本食レストラン利用回数	AM	AN*AS	120,139	3,193,020	回/年
	外食回数	AN	AO*AP*AQ*AR	24,027,804	6,386,040,000	回/年
	人口	AO	-	27,429	7,290,000	人
	1日あたり食事回数	AP	-	3	3	回/日
	外食率	AQ	-	80%	80%	%
	年換算	AR	-	365	365	日/年
	高級日本食レストラン利用率	AS	-	0.5%	0.05%	%
	高級日本食レストランコメ使用メニュー消費率	AT	-	80%	80%	%
	高級日本食レストラン1食あたりコメ消費量	AU	-	0.070	0.070	kg/回
	高級日本食レストランジャポニカ米比率	AV	-	100%	100%	%
	高級日本食レストラン日本産米使用率	AW	-	95%	95%	%
	中級日本食レストラン日本産米	AX	AY*BM	10,092	1,341,068	kg/年
	中級日本食レストランジャポニカ米消費量	AY	BA*BL	12,615	1,676,336	kg/年
	中級日本食レストランコメ消費量	BA	BB*BL	12,615	1,676,336	kg/年
	中級日本食レストランコメ消費回数	BB	BC*BK	180,209	23,947,650	回/年
	中級日本食レストラン利用回数	BC	BD*BI	240,278	31,930,200	回/年
	外食回数	BD	BE*BF*BG*BH	24,027,804	6,386,040,000	回/年
	人口	BE	-	27,429	7,290,000	人
	1日あたり食事回数	BF	-	3	3	回/日
	外食率	BG	-	80%	80%	%
	年換算	BH	-	365	365	日/年
	中級日本食レストラン利用率	BI	-	1.0%	0.5%	%
	中級日本食レストランコメ使用メニュー消費率	BJ	-	75%	75%	%
	中級日本食レストラン1食あたりコメ消費量	BK	-	0.070	0.070	kg/回
	中級日本食レストランジャポニカ米比率	BL	-	100%	100%	%
	中級日本食レストラン日本産米比率	BM	-	80%	80%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計



《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_香港 (3/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人		単位
				値	値	
	日本食ファストフードチェーン日本産米消費量	CC	CD*CQ	0	0	kg/年
	日本食ファストフードチェーンジャポニカ米消費量	CD	CE*CP	33,639	1,788,091	kg/年
	日本食ファストフードチェーンコメ消費量	CE	CF*CP	33,639	1,788,091	kg/年
	日本食ファストフードチェーンコメ消費回数	CF	CG*CO	480,556	25,544,160	回/年
	日本食ファストフードチェーン利用回数	CG	CH*CM	1,201,390	63,860,400	回/年
	外食回数	CH	CI*CJ*CK*CL	24,027,804	6,386,040,000	回/年
	人口	CI	-	27,429	7,290,000	人
	1日あたり食事回数	CJ	-	3.0	3.0	回/日
	外食率	CK	-	80%	80%	%
	年換算	CL	-	365	365	日/年
	日本食ファストフードチェーン利用率	CM	-	5%	1%	%
	日本食ファストフードチェーンコメ使用メニュー消費率	CN	-	40%	40%	%
	日本食ファストフードチェーン1食あたりコメ消費量	CO	-	0.070	0.070	kg/回
	日本食ファストフードチェーンジャポニカ米比率	CP	-	100%	100%	%
	日本食ファストフードチェーン日本産米比率	CQ	-	0%	0%	%
	寿司店日本産米消費量	BN	BO*CB	10,092	536,427	kg/年
	寿司店ジャポニカ米消費量	BO	BP*CA	16,819	894,046	kg/年
	寿司店コメ消費量	BP	BQ*CA	16,819	894,046	kg/年
	寿司店コメ消費回数	BQ	BR*BZ	240,278	12,772,080	回/年
	寿司店利用回数	BR	BS*BX	240,278	12,772,080	回/年
	外食回数	BS	BT*BU*BV*BW	24,027,804	6,386,040,000	回/年
	人口	BT	-	27,429	7,290,000	人
	1日あたり食事回数	BU	-	3	3	回/日
	外食率	BV	-	80%	80%	%
	年換算	BW	-	365	365	日/年
	寿司店利用率	BX	-	1.0%	0.2%	%
	寿司店コメ使用メニュー消費率	BY	-	100%	100%	%
	寿司店1食あたりコメ消費量	BZ	-	0.070	0.070	kg/回
	寿司店ジャポニカ米比率	CA	-	100%	100%	%
	寿司店日本産米比率	CB	-	60%	60%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_香港 (4/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	香港人	単位
				値	値	
	現地系日本食店日本産米消費量	CR	CS*DF	4,373	1,162,259	
	現地系日本食店ジャポニカ米消費量	CS	CT*DE	43,731	11,622,593	kg/年
	現地系日本食店コメ消費量	CT	CU*DE	54,663	14,528,241	kg/年
	現地系日本食店コメ消費回数	CU	CV*DD	780,904	207,546,300	回/年
	現地系日本食店利用回数	CV	CW*DB	1,201,390	319,302,000	回/年
	外食回数	CW	CX*CY*CZ*DA	24,027,804	6,386,040,000	回/年
	人口	CX	-	27,429	7,290,000	人
	1日あたり食事回数	CY	-	3.0	3.0	回/日
	外食率	CZ	-	80%	80%	%
	年換算	DA	-	365	365	日/年
	現地系日本食店利用率	DB	-	5%	5%	%
	現地系日本食店コメ使用メニュー消費率	DC	-	65%	65%	%
	現地系日本食店1食あたりコメ消費量	DD	-	0.070	0.070	kg/回
	現地系日本食店ジャポニカ米比率	DE	-	80%	80%	%
	現地系日本食店日本産米比率	DF	-	10%	10%	%
	中華料理店日本産米消費量	DG	DH*DU	0	0	kg/年
	中華料理店ジャポニカ米消費量	DH	DI*DT	196,788	69,735,557	kg/年
	中華料理店コメ消費量	DI	DJ*DT	655,959	232,451,856	kg/年
	中華料理店コメ消費回数	DJ	DK*DS	9,370,844	3,320,740,800	回/年
	中華料理店利用回数	DK	DL*DQ	14,416,682	5,108,832,000	回/年
	外食回数	DL	DM*DN*DO*DP	24,027,804	6,386,040,000	回/年
	人口	DM	-	27,429	7,290,000	人
	1日あたり食事回数	DN	-	3	3	回/日
	外食率	DO	-	80%	80%	%
	年換算	DP	-	365	365	日/年
	中華料理店利用率	DQ	-	60%	80%	%
	中華料理店コメ使用メニュー消費率	DR	-	65%	65%	%
	中華料理店1食あたりコメ消費量	DS	-	0.070	0.070	kg/回
	中華料理店ジャポニカ米比率	DT	-	30%	30%	%
	中華料理店日本産米比率	DU	-	0%	0%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

## 《参考》香港の外食店におけるコメ市場

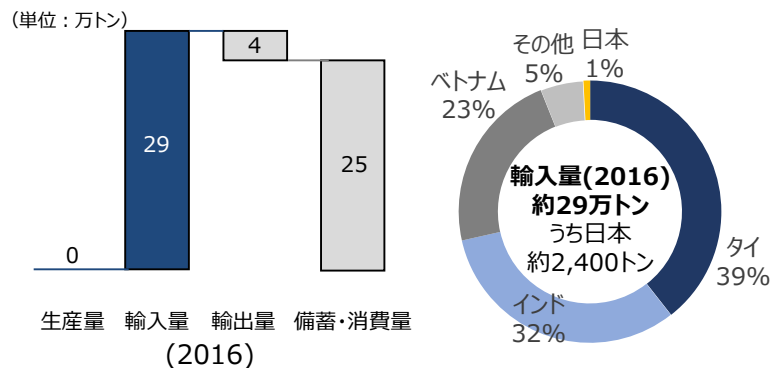
- 外食店数：約16,000店
  - 中華料理店が約30.3%を占め、他国料理店では日本食店が最も多く6.9%を占める
    - ✓ 日本からは大戸屋、ワタミ、トリドールなどが進出
- 香港の外食店における日本産米・ジャポニカ米取扱比率※
  - 外食店のジャンル別のコメ平均購入単価と各国産別のジャポニカ米の価格帯及び定性情報から、ジャポニカ米・日本産米の取扱比率を推計
  - 高級日本食店ではほぼ日本産米が使用されている。寿司店ではすし酢で調味するため日本産米以外でもよいと考えている事業者が存在しており、価格帯に鑑みても米国産米などを使用している事業者が一部存在していると考えられる。
  - また、薄利多売の事業構造を取っている日系ファーストフード店においても、仕入価格が高いことから日本産米はほとんど使用されていない
  - 現地系日本食店では一部インディカ米が使用されているケースもあり、コメへのこだわりが薄いことから価格の高い日本産米の使用はほとんどないものと考えられる

日系or現地系	中分類	小分類	コメ平均購入単価(円/キロ)	ジャポニカ米率 (推定)	日本産米使用率 (推定)
日系日本食料理店	高級店	高級和食	830	100%	100%
		フュージョン	850	100%	90%
	中級店	一般和食店	750	100%	80%
	その他	ファーストフード	240	100%	0%
		寿司店	650	100%	60%
現地系日本食料理店		日式和食店	340	70%	0%
		喫茶食堂	360	80%	0%

各国産別コメ価格帯 (円/キロ)	
日本産米	500~800
米国産米	300~350
中国産米	100~250

※『平成22年度 香港における米市場調査』(JETRO)等を元にアクセントリア作成

### シンガポール コメ市場概要



- 年間のコメ備蓄・消費は約25万トン。ほぼ100%を輸入に依存しており、主にタイ、インド、ベトナムから輸入している
- 日本からの輸入量は年間約2,400トン

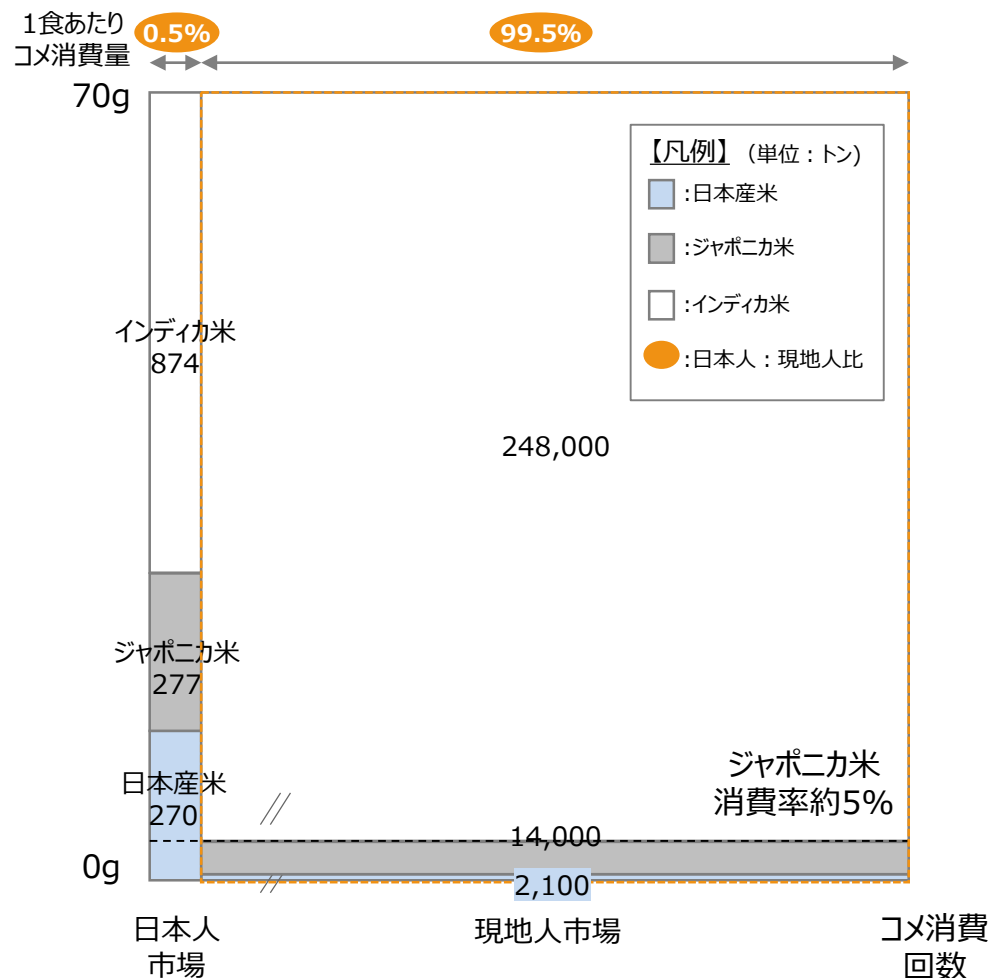
### 食習慣

- ジャポニカ米・インディカ米比率 = 5:95
  - 米は出汁やスープとともに食されることが多く、パラパラとした食感のコメが好まれる
- 外食・内食比率 = 67:33
  - ホーカー(低価格帯の屋台)が盛んで、インディカ米を使用したチキンライスや麺類を販売

### 外食・小売における日本産米

- 【小売】
- 日系スーパーマーケット百貨店や高級スーパー等で販売されており、主に日本人駐在員、現地富裕層が購入している
- 【外食】
- 日系高級・中級外食店(客単価2,000円以上)での取扱が中心 (日系外食事業者ヒアリング)

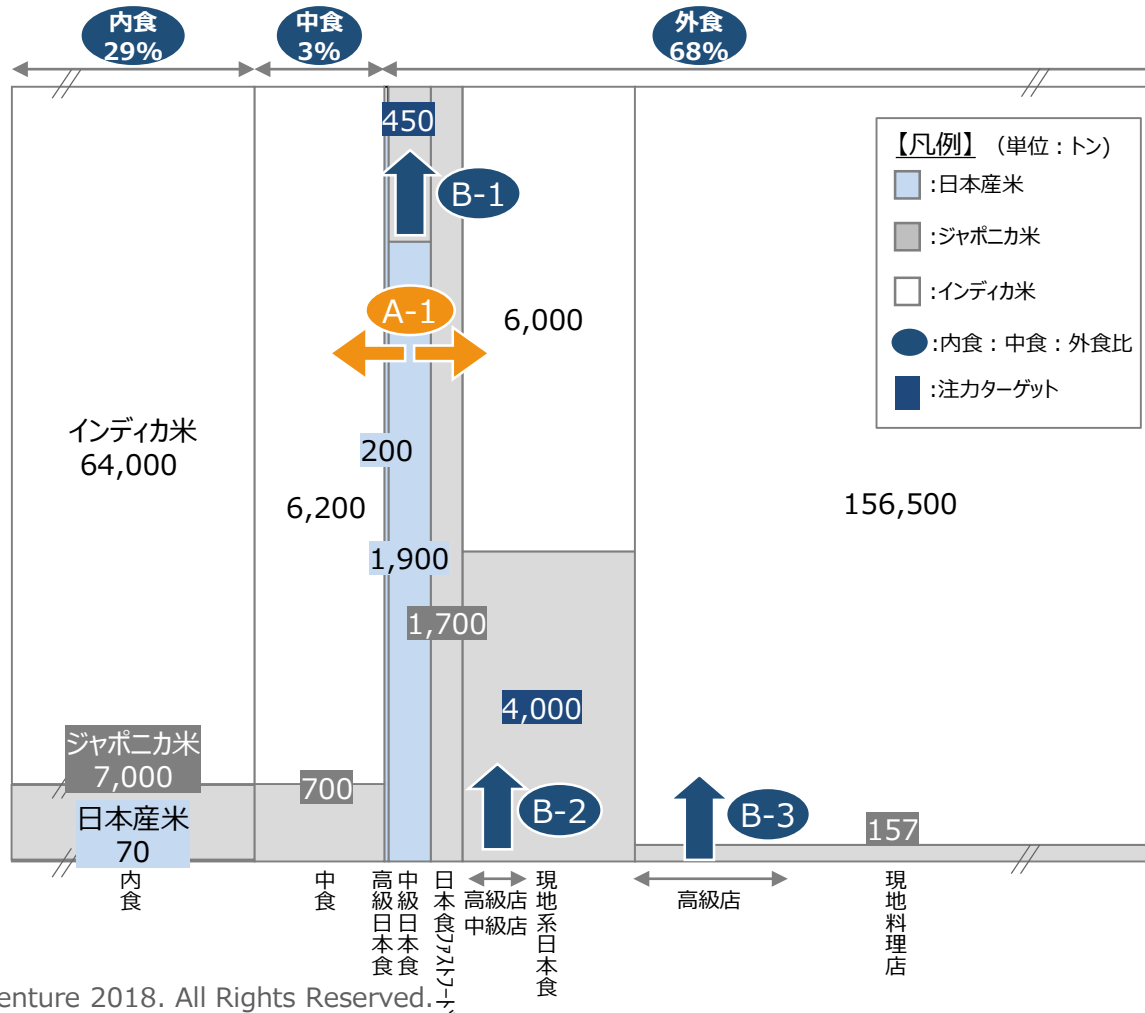
### シンガポールにおけるコメ消費動向推計(2016)



日本産米の輸出拡大に向けては、市場規模の大きい、現地人市場の拡大に優先して取り組むべき  
→現地人市場について次ページにて詳細化

## A. 中級日本食店の店舗数の拡大及び、B. 寿司・丼物などの日本食店・中級日本食店・現地系日本食店で日本産米取扱率の拡大を検討するのが望ましいと考えられる。

シンガポール現地人コメ消費動向(2016)



### A. 日本産米取扱店舗の拡大

**A-1** 【日系中級外食店の店舗拡大】(注力)

- 日本産米の取扱率が高く、店舗数が多い、日系中級外食店の店舗数拡大

### B. 日本産米取扱率の増加

**B-1** 【専用米の開発による取扱拡大】(注力)

- 寿司や丼物等の日本産米の取扱率が低い中級日本食外食店でのメニューに合うコメ・炊飯方法の提案等を通じた日本産米の 프로모ーション

**B-2** 【現地系日本食店ででの取扱拡大】(注力)

- 日本産米の取扱率が低い、現地系日本食店への売込による取扱拡大

**B-3** 【高級現地料理店ででの取扱拡大】(準注力)

- 日本産米を活用した現地料理メニューの開発等を通じたでの取扱拡大

# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_シンガポール (1/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	シンガポール人	単位
				値	値	
全体	日本産米消費量	A	D+Q+AF	270	2,072	t/年
	ジャボニカ米消費量	B	E+R+AG	547	15,989	t/年
	コメ消費量	C	F+S+AH	1,421	248,273	t/年
内食	内食日本産米消費量	D	E*P	256,134	70,951	kg/年
	内食ジャボニカ米消費量	E	F*O	426,890	7,095,107	kg/年
	内食コメ消費量	F	G*N	474,322	70,951,073	kg/年
	コメ内食コメ消費回数	G	H*M	6,776,035	1,013,586,750	回/年
	内食回数	H	I*J*K*L	13,552,070	2,027,173,500	回/年
	人口	I	-	37,504	5,610,000	人
	1日あたり食事回数	J	-	3	3	回/日
	内食率	K	-	33%	33%	%
	年換算	L	-	365	365	日/年
	内食1回あたりコメ消費率	M	-	50%	50%	kg
	1回あたり内食コメ消費量	N	-	0.070	0.070	kg
	内食ジャボニカ米比率	O	-	90%	10%	%
	内食日本産米率	P	-	60%	1%	%
	中食	中食日本産米消費量	Q	R*AB	0	0
中食ジャボニカ米消費量		R	S*AC	4,599	688,010	kg/年
中食コメ消費量		S	U*AD	45,995	6,880,104	kg/年
中食コメ消費回数		U	V*AB	657,070	98,287,200	回
中食消費回数		V	W*X*Y*Z	821,338	122,859,000	回/年
人口		W	-	37,504	5,610,000	人
1日あたり食事回数		X	-	3	3	回/日
中食率		Y	-	2%	2%	回/日
年換算		Z	-	365	365	日/年
中食コメ消費率		AB	-	80%	80%	%
中食1つあたりコメ量		AC	-	0.070	0.070	kg
中食ジャボニカ米比率		AD	-	10%	10%	%
中食日本産米比率		AE	-	0%	0%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_シンガポール (2/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	シンガポール人	単位
				値	値	
外食	外食日本産米消費量	AF	AI+AX+CC+CC+CR+DG	13,379	2,001,250	kg/年
	外食ジャポニカ米消費量	AG	AJ+AY+CD+CD+CS+DH	115,476	8,206,244	kg/年
	外食コメ消費量	AH	AK+BA+CE+CE+CT+DI	900,264	170,441,676	kg/年
	高級日本食レストラン日本産米消費量	AI	AJ*AW	1,420	212,423	kg/年
	高級日本食レストランジャポニカ米消費量消費量	AJ	AK*AV	1,495	223,603	kg/年
	高級日本食レストランコメ消費量	AK	AL*AV	1,495	223,603	kg/年
	高級日本食レストランコメ消費回数	AL	AM*AU	21,355	3,194,334	回/年
	高級日本食レストラン利用回数	AM	AN*AS	26,693	3,992,918	回/年
	外食回数	AN	AO*AP*AQ*AR	26,693,472	3,992,917,500	回/年
	人口	AO	-	37,504	5,610,000	人
	1日あたり食事回数	AP	-	3	3	回/日
	外食率	AQ	-	65%	65%	%
	年換算	AR	-	365	365	日/年
	高級日本食レストラン利用率	AS	-	0.10%	0.10%	%
	高級日本食レストランコメ使用メニュー消費率	AT	-	80%	80%	%
	高級日本食レストラン1食あたりコメ消費量	AU	-	0.070	0.070	kg/回
	高級日本食レストランジャポニカ米比率	AV	-	100%	100%	%
	高級日本食レストラン日本産米使用率	AW	-	95%	95%	%
	中級日本食レストラン日本産米消費量	AX	AY*BM	11,959	1,788,827	kg/年
	中級日本食レストランジャポニカ米消費量消費量	AY	BA*BL	14,948	2,236,034	kg/年
	中級日本食レストランコメ消費量	BA	BB*BL	14,948	2,236,034	kg/年
	中級日本食レストランコメ消費回数	BB	BC*BK	213,548	31,943,340	回/年
	中級日本食レストラン利用回数	BC	BD*BI	266,935	39,929,175	回/年
	外食回数	BD	BE*BF*BG*BH	26,693,472	3,992,917,500	回/年
	人口	BE	-	37,504	5,610,000	人
	1日あたり食事回数	BF	-	3	3	回/日
	外食率	BG	-	65%	65%	%
	年換算	BH	-	365	365	日/年
	中級日本食レストラン利用率	BI	-	1.0%	1.0%	%
	中級日本食レストランコメ使用メニュー消費率	BJ	-	80%	80%	%
	中級日本食レストラン1食あたりコメ消費量	BK	-	0.070	0.070	kg/回
	中級日本食レストランジャポニカ米比率	BL	-	100%	100%	%
中級日本食レストラン日本産米使用率	BM	-	80%	80%	%	

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_シンガポール (3/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	シンガポール人	単位
				値	値	
	日本食低価格チェーン日本産米消費量	CC	CD*CQ	0	0	kg/年
	日本食低価格チェーンジャポニカ米消費量	CD	CE*CP	33,634	1,677,025	kg/年
	日本食低価格チェーンコメ消費量	CE	CF*CP	33,634	1,677,025	kg/年
	日本食低価格チェーンコメ消費回数	CF	CG*CO	480,482	23,957,505	回/年
	日本食低価格チェーン利用回数	CG	CH*CM	800,804	39,929,175	回/年
	外食回数	CH	CI*CJ*CK*CL	26,693,472	3,992,917,500	回/年
	人口	CI	-	37,504	5,610,000	人
	1日あたり食事回数	CJ	-	3.0	3.0	回/日
	外食率	CK	-	65%	65%	%
	年換算	CL	-	365	365	日/年
	日本食低価格チェーン利用率	CM	-	3%	1%	%
	日本食低価格チェーンコメ使用メニュー消費率	CN	-	60%	60%	%
	日本食低価格チェーン1食あたりコメ消費量	CO	-	0.070	0.070	kg/回
	日本食低価格チェーンジャポニカ米比率	CP	-	100%	100%	%
	日本食低価格チェーン日本産米比率	CQ	-	0%	0%	%
	現地系日本食店日本産米消費量	CR	CS*DF	0	0	kg/年
	現地系日本食店ジャポニカ米消費量	CS	CT*DE	26,160	3,913,059	kg/年
	現地系日本食店コメ消費量	CT	CU*DE	65,399	9,782,648	kg/年
	現地系日本食店コメ消費回数	CU	CV*DD	934,272	139,752,113	回/年
	現地系日本食店利用回数	CV	CW*DB	1,334,674	199,645,875	回/年
	外食回数	CW	CX*CY*CZ*DA	26,693,472	3,992,917,500	回/年
	人口	CX	-	37,504	5,610,000	人
	1日あたり食事回数	CY	-	3.0	3.0	回/日
	外食率	CZ	-	65%	65%	%
	年換算	DA	-	365	365	日/年
	現地系日本食店利用率	DB	-	5%	5%	%
	現地系日本食店コメ使用メニュー消費率	DC	-	70%	70%	%
	現地系日本食店1食あたりコメ消費量	DD	-	0.070	0.070	kg/回
	現地系日本食店ジャポニカ米比率	DE	-	40%	40%	%
	現地系日本食店日本産米比率	DF	-	0%	0%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

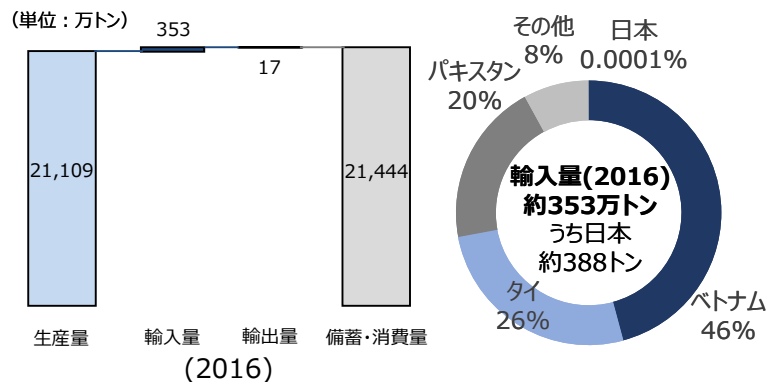


# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_シンガポール (4/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	シンガポール人	単位
				値	値	
	中華・現地料理店日本産米消費量	DG	DH*DU	0	0	kg/年
	中華・現地料理店ジャボニカ米消費量	DH	DI*DT	39,239	156,522	kg/年
	中華・現地料理店コメ消費量	DI	DJ*DT	784,788	156,522,366	kg/年
	中華・現地料理店コメ消費回数	DJ	DK*DS	11,211,258	2,236,033,800	回/年
	中華料理店利用回数	DK	DL*DQ	16,016,083	3,194,334,000	回/年
	外食回数	DL	DM*DN*DO*DP	26,693,472	3,992,917,500	回/年
	人口	DM	-	37,504	5,610,000	人
	1日あたり食事回数	DN	-	3	3	回/日
	外食率	DO	-	65%	65%	%
	年換算	DP	-	365	365	日/年
	中華・現地料理店利用率	DQ	-	60%	80%	%
	中華・現地料理店コメ使用メニュー消費率	DR	-	70%	70%	%
	中華・現地料理店1食あたりコメ消費量	DS	-	0.070	0.070	kg/回
	中華・現地料理店ジャボニカ米比率	DT	-	5%	0.1%	%
	中華・現地料理店日本産米比率	DU	-	0%	0%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

### 中国（全土）コメ市場概要



- 年間のコメ備蓄・消費は約2億トン。コメの生産国であり、ほぼ国内で消費される。コメの輸入はベトナム・タイが中心。日本からの輸出は検疫や放射能に関する規制等の影響もあり、全体の1%未満にとどまる

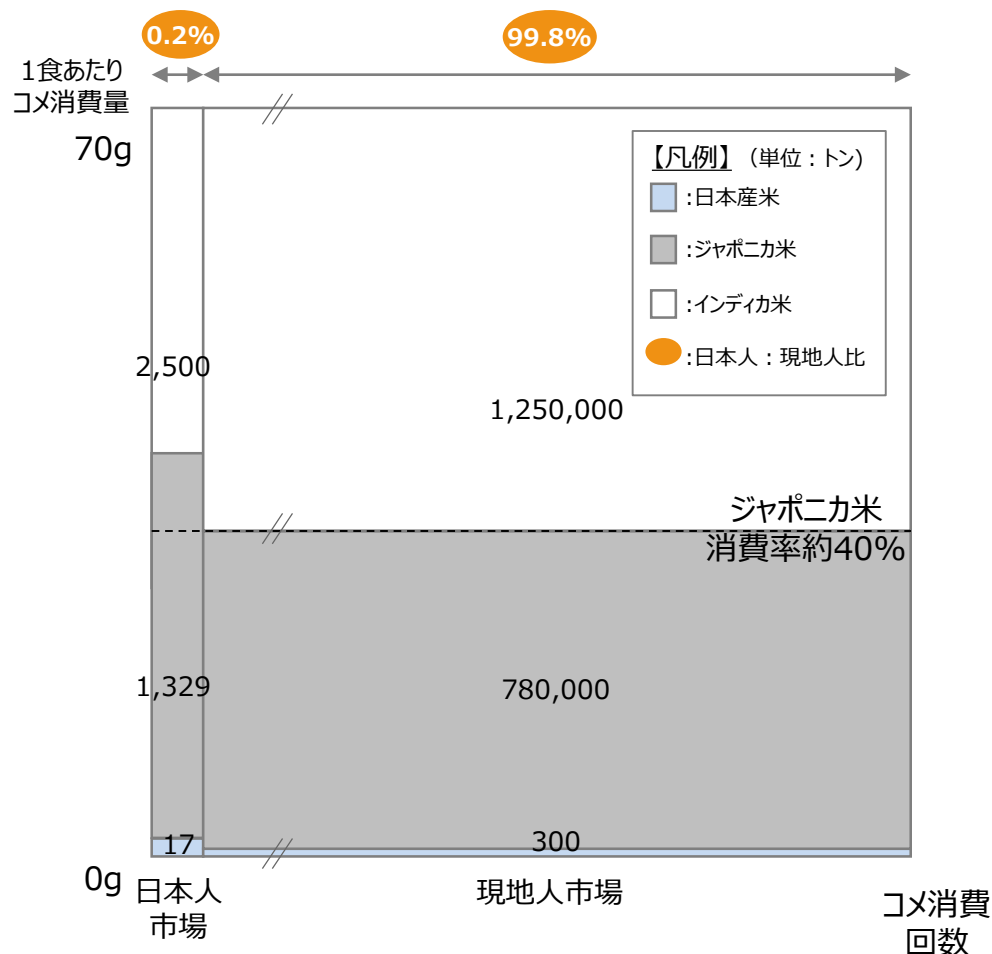
### 食習慣

- ジャポニカ米・インディカ米比率 = 40:60
  - 中国の東北地方を中心に、ジャポニカ米が生産されている
- 外食・内食比率 = 70:30 (推定)
  - 近年、都市部を中心に香港・台湾と同程度の外食頻度と推定

### 外食・小売市場における日本産米の取扱

- 【小売】
- 日系小売や百貨店等での販売が中心。主に日本人駐在員、現地の富裕層が購入
- 【外食】
- 一部高級日本食店を中心に日本産米が取り扱われているものと推定

### 中国(上海・北京)※におけるコメ消費動向推計(2016)



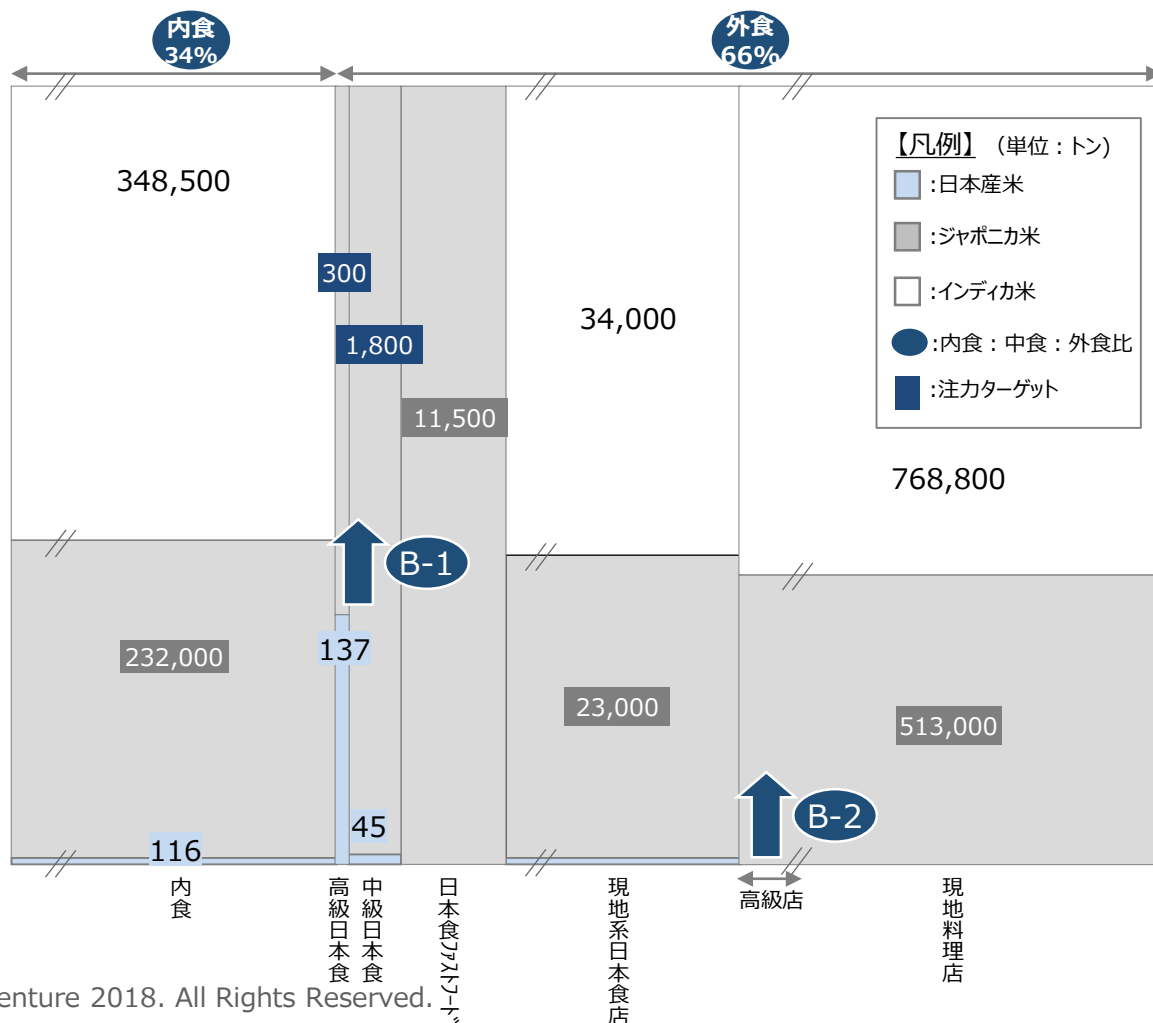
日本産米の輸出拡大に向けては、市場規模の大きい、現地人市場の拡大に優先して取組むべき  
→現地人市場について次ページにて詳細化

※ 日本産米が主に消費され则认为される上海・北京を対象に推計を行った

※各種公知情報・ヒアリング等を基にアクセントリア作成

日系高級・中級日本食店で日本産米取扱拡大に向け、売込等がかかることが望ましい。併せて、中国のコメ市場に関しては、十分な既存公知調査がなく、消費地域・セグメントについて情報不足今後、販路開拓と合わせて市場の理解が必要。

中国（上海・北京）現地人コメ消費動向(2016)



### B. 日本産米取扱率の増加

B-1

【高級・中級日本食店で取扱拡大】(注力)

- 消費量に鑑みて、高級店でさえ日本産米の取扱が少ないと考えられる。価格・供給体制等の課題・ニーズを調査しつつ、日系高級・中級日本食店への売り込みをかける

B-2

【高級現地料理店での取扱拡大】(準注力)

- 日本産米を活用した現地料理メニューの開発等を通じたでの取扱拡大

# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_中国 (1/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	中国人	単位
				値	値	
全体	日本産米消費量	A	$D+Q+AF$	17	299	t/年
	ジャポニカ米消費量	B	$E+R+AG$	2,137	781,491	t/年
	コメ消費量	C	$F+S+AH$	3,846	1,933,133	t/年
内食	内食日本産米消費量	D	$E*P$	16,391	116,168	kg/年
	内食ジャポニカ米消費量	E	$F*O$	1,092,722	232,335,041	kg/年
	内食コメ消費量	F	$G*N$	1,365,903	580,837,604	kg/年
	コメ内食コメ消費回数	G	$H*M$	19,512,900	8,297,680,050	回/年
	内食回数	H	$I*J*K*L$	39,025,800	16,595,360,100	回/年
	人口	I	-	108,000	45,926,000	人
	1日あたり食事回数	J	-	3	3	回/日
	内食率	K	-	33%	33%	%
	年換算	L	-	365	365	日/年
	内食1回あたりコメ消費率	M	-	50%	50%	kg
	1回あたり内食コメ消費量	N	-	0.070	0.070	kg
	内食ジャポニカ米比率	O	-	80%	40%	%
	内食日本産米率	P	-	2%	0%	%
	中食	中食日本産米消費量	Q	$R*AB$	0	0
中食ジャポニカ米消費量		R	$S*AC$	0	0	kg/年
中食コメ消費量		S	$U*AD$	0	0	kg/年
中食コメ消費回数		U	$V*AB$	0	0	回
中食消費回数		V	$W*X*Y*Z$	0	0	回/年
人口		W	-	108,000	45,926,000	人
1日あたり食事回数		X	-	3	3	回/日
中食率		Y	-	0%	0%	回/日
年換算		Z	-	365	365	日/年
中食コメ消費率		AB	-	80%	80%	%
中食1つあたりコメ量		AC	-	0.070	0.070	kg
中食ジャポニカ米比率		AD	-	10%	10%	%
中食日本産米比率		AE	-	0%	0%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_中国 (2/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	中国人	単位
				値	値	
外食	外食日本産米消費量	AF	AI+AX+CC+CC+CR+DG	430	183,052	kg/年
	外食ジャポニカ米消費量	AG	AJ+AY+CD+CD+CS+DH	1,043,881	549,155,552	kg/年
	外食コメ消費量	AH	AK+BA+CE+CE+CT+DI	2,480,563	1,352,295,548	kg/年
	高級日本食レストラン日本産米消費量	AI	AJ*AW	323	137,289	kg/年
	高級日本食レストランジャポニカ米消費量消費量	AJ	AK*AV	1,076	457,630	kg/年
	高級日本食レストランコメ消費量	AK	AL*AV	1,076	457,630	kg/年
	高級日本食レストランコメ消費回数	AL	AM*AU	15,374	6,537,566	回/年
	高級日本食レストラン利用回数	AM	AN*AS	30,748	13,075,132	回/年
	外食回数	AN	AO*AP*AQ*AR	76,869,000	32,687,830,500	回/年
	人口	AO	-	108,000	45,926,000	人
	1日あたり食事回数	AP	-	3	3	回/日
	外食率	AQ	-	65%	65%	%
	年換算	AR	-	365	365	日/年
	高級日本食レストラン利用率	AS	-	0.04%	0.04%	%
	高級日本食レストランコメ使用メニュー消費率	AT	-	50%	50%	%
	高級日本食レストラン1食あたりコメ消費量	AU	-	0.070	0.070	kg/回
	高級日本食レストランジャポニカ米比率	AV	-	100%	100%	%
	高級日本食レストラン日本産米使用率	AW	-	30%	30%	%
	中級日本食レストラン日本産米消費量	AX	AY*BM	108	45,763	kg/年
	中級日本食レストランジャポニカ米消費量消費量	AY	BA*BL	4,305	1,830,519	kg/年
	中級日本食レストランコメ消費量	BA	BB*BL	4,305	1,830,519	kg/年
	中級日本食レストランコメ消費回数	BB	BC*BK	61,495	26,150,264	回/年
	中級日本食レストラン利用回数	BC	BD*BI	76,869	32,687,831	回/年
	外食回数	BD	BE*BF*BG*BH	76,869,000	32,687,830,500	回/年
	人口	BE	-	108,000	45,926,000	人
	1日あたり食事回数	BF	-	3	3	回/日
	外食率	BG	-	65%	65%	%
	年換算	BH	-	365	365	日/年
	中級日本食レストラン利用率	BI	-	0.1%	0.1%	%
	中級日本食レストランコメ使用メニュー消費率	BJ	-	80%	80%	%
	中級日本食レストラン1食あたりコメ消費量	BK	-	0.070	0.070	kg/回
	中級日本食レストランジャポニカ米比率	BL	-	100%	100%	%
中級日本食レストラン日本産米使用率	BM	-	3%	3%	%	

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_中国 (3/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	中国人	単位
				値	値	
	日本食低価格チェーン日本産米消費量	CC	CD*CQ	0	0	kg/年
	日本食低価格チェーンジャポニカ米消費量	CD	CE*CP	80,712	11,440,741	kg/年
	日本食低価格チェーンコメ消費量	CE	CF*CP	80,712	11,440,741	kg/年
	日本食低価格チェーンコメ消費回数	CF	CG*CO	1,153,035	163,439,153	回/年
	日本食低価格チェーン利用回数	CG	CH*CM	2,306,070	326,878,305	回/年
	外食回数	CH	CI*CJ*CK*CL	76,869,000	32,687,830,500	回/年
	人口	CI	-	108,000	45,926,000	人
	1日あたり食事回数	CJ	-	3.0	3.0	回/日
	外食率	CK	-	65%	65%	%
	年換算	CL	-	365	365	日/年
	日本食低価格チェーン利用率	CM	-	3%	1%	%
	日本食低価格チェーンコメ使用メニュー消費率	CN	-	50%	50%	%
	日本食低価格チェーン1食あたりコメ消費量	CO	-	0.070	0.070	kg/回
	日本食低価格チェーンジャポニカ米比率	CP	-	100%	100%	%
	日本食低価格チェーン日本産米比率	CQ	-	0%	0%	%
	現地系日本食店日本産米消費量	CR	CS*DF	0	0	kg/年
	現地系日本食店ジャポニカ米消費量	CS	CT*DE	53,808	22,881,481	kg/年
	現地系日本食店コメ消費量	CT	CU*DE	134,521	57,203,703	kg/年
	現地系日本食店コメ消費回数	CU	CV*DD	1,921,725	817,195,763	回/年
	現地系日本食店利用回数	CV	CW*DB	3,843,450	1,634,391,525	回/年
	外食回数	CW	CX*CY*CZ*DA	76,869,000	32,687,830,500	回/年
	人口	CX	-	108,000	45,926,000	人
	1日あたり食事回数	CY	-	3.0	3.0	回/日
	外食率	CZ	-	65%	65%	%
	年換算	DA	-	365	365	日/年
	現地系日本食店利用率	DB	-	5%	5%	%
	現地系日本食店コメ使用メニュー消費率	DC	-	50%	50%	%
	現地系日本食店1食あたりコメ消費量	DD	-	0.070	0.070	kg/回
	現地系日本食店ジャポニカ米比率	DE	-	40%	40%	%
	現地系日本食店日本産米比率	DF	-	0%	0%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

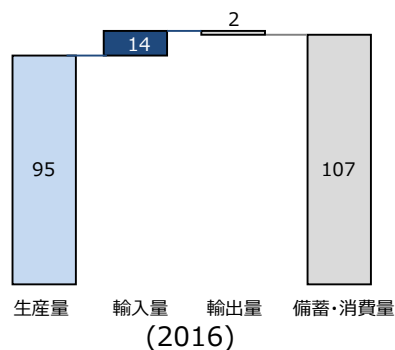
# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_中国 (4/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	中国人	単位
				値	値	
	中華・現地料理店日本産米消費量	DG	DH*DU	0	0	kg/年
	中華・現地料理店ジャポニカ米消費量	DH	DI*DT	903,979	512,545,182	kg/年
	中華・現地料理店コメ消費量	DI	DJ*DT	2,259,949	1,281,362,956	kg/年
	中華・現地料理店コメ消費回数	DJ	DK*DS	32,284,980	18,305,185,080	回/年
	中華料理店利用回数	DK	DL*DQ	46,121,400	26,150,264,400	回/年
	外食回数	DL	DM*DN*DO*DP	76,869,000	32,687,830,500	回/年
	人口	DM	-	108,000	45,926,000	人
	1日あたり食事回数	DN	-	3	3	回/日
	外食率	DO	-	65%	65%	%
	年換算	DP	-	365	365	日/年
	中華・現地料理店利用率	DQ	-	60%	80%	%
	中華・現地料理店コメ使用メニュー消費率	DR	-	70%	70%	%
	中華・現地料理店1食あたりコメ消費量	DS	-	0.070	0.070	kg/回
	中華・現地料理店ジャポニカ米比率	DT	-	40%	40%	%
	中華・現地料理店日本産米比率	DU	-	0%	0%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

### 台湾コメ市場概要

(単位：万トン)



#### 生産・輸入・消費動向

- 年間のコメ備蓄・消費量は約107万トン。うち約10%にあたる14トンを入力に依存しており、主に米国、ベトナムから輸入している
- 近年、米の消費量の低下を受け、国内米価の暴落を防ぐ目的で減反政策を実施している

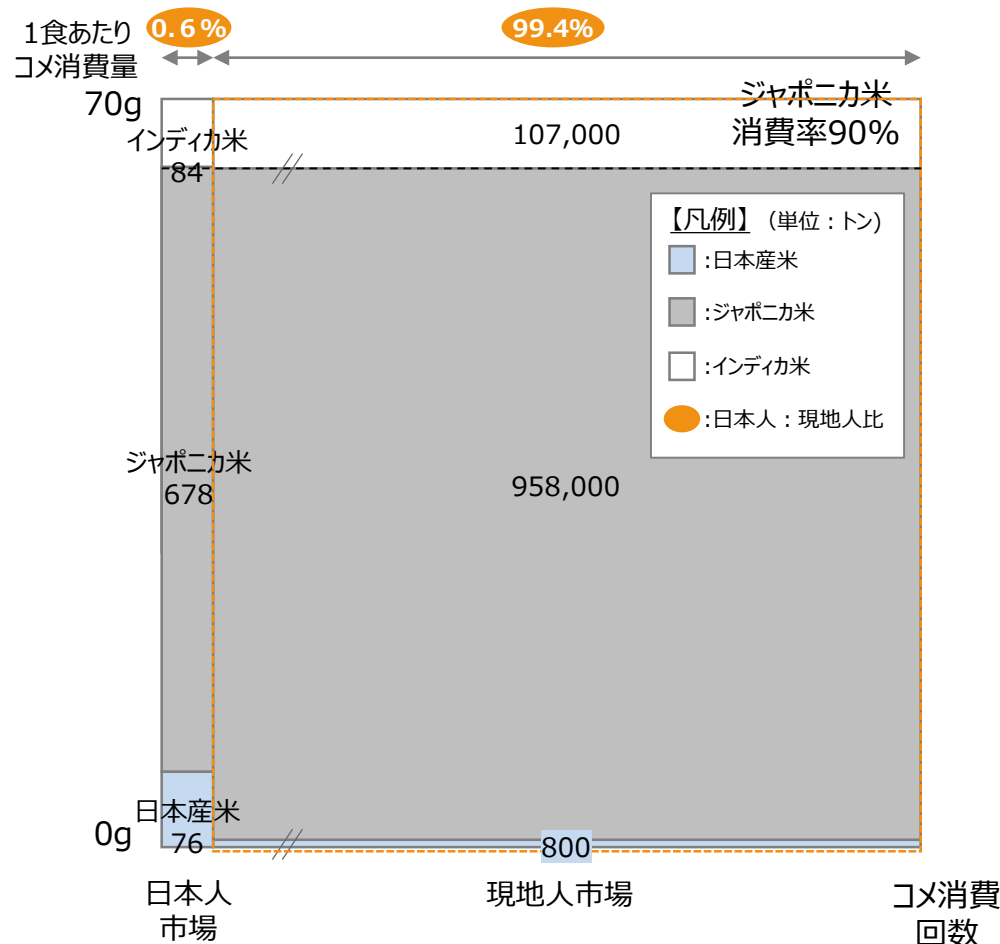
#### 食習慣

- ジャポニカ米・インディカ米比率 = 90:10 (推定)
  - 池上米等の現地産米ブランドが確立
  - 小売店では現地産米ジャポニカ米が中心で、一部タイ産のジャスミンライス等を販売
- 外食・内食比率 = 80:20 (推定)
  - 香港・シンガポールと同程度の外食頻度と推定

#### 外食・小売市場における日本産米の取扱

- 【小売】
- 百貨店や高級スーパー等で販売されている。主に日本人駐在員、現地富裕層が購入。現地産米との品質の差を訴求するため、試食販売を積極的に実施
- 【外食】
- 日系高級外食店での取扱が中心。日系中級外食や現地系日本食店での日本産米の取扱は少ない

### 台湾におけるコメ消費動向推計(2016)

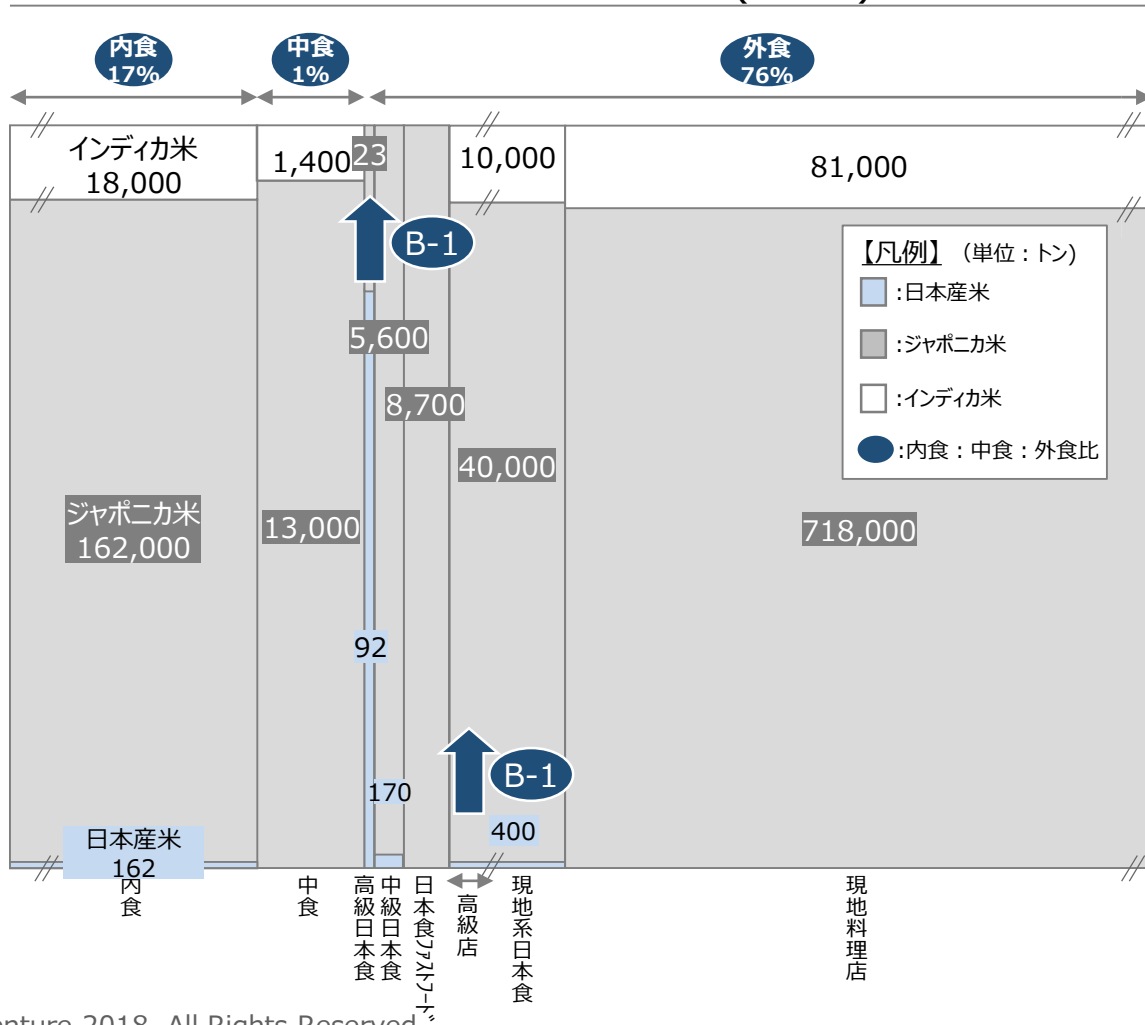


日本産米の輸出拡大に向けては、市場規模の大きい、現地人市場の拡大に優先して取組むべき  
→現地人市場について次ページにて詳細化



## 総じて現地産米の品質・価格競争力が高く、高級日本食店で取り扱いを維持・拡大することに注力。

台湾現地人コメ消費動向(2016)



### ↑ B. 日本産米取扱率の増加

B-1 【高級日本食店での取扱拡大】(安定)

- 日系・現地系の高級日本食店での取扱率維持・拡大に向け、価格低減・差別化に取組みつつ売込をかける

《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_台湾 (1/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	台湾人	単位
				値	値	
全体	日本産米消費量	A	D+Q+AF	76	833	t/年
	ジャポニカ米消費量	B	E+R+AG	754	958,267	t/年
	コメ消費量	C	F+S+AH	838	1,068,739	t/年
内食	内食日本産米消費量	D	E*P	75,494	162,460	kg/年
	内食ジャポニカ米消費量	E	F*O	150,987	162,459,675	kg/年
	内食コメ消費量	F	G*N	167,764	180,510,750	kg/年
	コメ内食コメ消費回数	G	H*M	2,396,627	2,578,725,000	回/年
	内食回数	H	I*J*K*L	4,793,253	5,157,450,000	回/年
	人口	I	-	21,887	23,550,000	人
	1日あたり食事回数	J	-	3	3	回/日
	内食率	K	-	20%	20%	%
	年換算	L	-	365	365	日/年
	内食1回あたりコメ消費率	M	-	50%	50%	kg
	1回あたり内食コメ消費量	N	-	0.070	0.070	kg
	内食ジャポニカ米比率	O	-	90%	90%	%
	内食日本産米率	P	-	50%	0.1%	%
	中食	中食日本産米消費量	Q	R*AB	0	0
中食ジャポニカ米消費量		R	S*AC	12,079	12,996,774	kg/年
中食コメ消費量		S	U*AD	13,421	14,440,860	kg/年
中食コメ消費回数		U	V*AB	191,730	206,298,000	回
中食消費回数		V	W*X*Y*Z	239,663	257,872,500	回/年
人口		W	-	21,887	23,550,000	人
1日あたり食事回数		X	-	3	3	回/日
中食率		Y	-	1%	1%	回/日
年換算		Z	-	365	365	日/年
中食コメ消費率		AB	-	80%	80%	%
中食1つあたりコメ量		AC	-	0.070	0.070	kg
中食ジャポニカ米比率		AD	-	90%	90%	%
中食日本産米比率		AE	-	0%	0%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_台湾 (2/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	台湾人	単位
				値	値	
外食	外食日本産米消費量	AF	AI+AX+CC+CC+CR+DG	623	670,056	kg/年
	外食ジャポニカ米消費量	AG	AJ+AY+CD+CD+CS+DH	590,636	782,810,139	kg/年
	外食コメ消費量	AH	AK+BA+CE+CE+CT+DI	656,400	873,787,557	kg/年
	高級日本食レストラン日本産米消費量	AI	AJ*AW	86	92,422	kg/年
	高級日本食レストランジャポニカ米消費量消費量	AJ	AK*AV	107	115,527	kg/年
	高級日本食レストランコメ消費量	AK	AL*AV	107	115,527	kg/年
	高級日本食レストランコメ消費回数	AL	AM*AU	1,534	1,650,384	回/年
	高級日本食レストラン利用回数	AM	AN*AS	1,917	2,062,980	回/年
	外食回数	AN	AO*AP*AQ*AR	19,173,012	20,629,800,000	回/年
	人口	AO	-	21,887	23,550,000	人
	1日あたり食事回数	AP	-	3	3	回/日
	外食率	AQ	-	80%	80%	%
	年換算	AR	-	365	365	日/年
	高級日本食レストラン利用率	AS	-	0.01%	0.01%	%
	高級日本食レストランコメ使用メニュー消費率	AT	-	80%	80%	%
	高級日本食レストラン1食あたりコメ消費量	AU	-	0.070	0.070	kg/回
	高級日本食レストランジャポニカ米比率	AV	-	100%	100%	%
	高級日本食レストラン日本産米使用率	AW	-	80%	80%	%
	中級日本食レストラン日本産米消費量	AX	AY*BM	161	173,290	kg/年
	中級日本食レストランジャポニカ米消費量消費量	AY	BA*BL	5,368	5,776,344	kg/年
	中級日本食レストランコメ消費量	BA	BB*BL	5,368	5,776,344	kg/年
	中級日本食レストランコメ消費回数	BB	BC*BK	76,692	82,519,200	回/年
	中級日本食レストラン利用回数	BC	BD*BI	95,865	103,149,000	回/年
	外食回数	BD	BE*BF*BG*BH	19,173,012	20,629,800,000	回/年
	人口	BE	-	21,887	23,550,000	人
	1日あたり食事回数	BF	-	3	3	回/日
	外食率	BG	-	80%	80%	%
	年換算	BH	-	365	365	日/年
	中級日本食レストラン利用率	BI	-	0.5%	0.5%	%
	中級日本食レストランコメ使用メニュー消費率	BJ	-	80%	80%	%
	中級日本食レストラン1食あたりコメ消費量	BK	-	0.070	0.070	kg/回
	中級日本食レストランジャポニカ米比率	BL	-	100%	100%	%
	中級日本食レストラン日本産米使用率	BM	-	3%	3%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_台湾 (3/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人		単位
				値	値	
	日本食低価格チェーン日本産米消費量	CC	CD*CQ	0	0	kg/年
	日本食低価格チェーンジャポニカ米消費量	CD	CE*CP	40,263	8,664,516	kg/年
	日本食低価格チェーンコメ消費量	CE	CF*CP	40,263	8,664,516	kg/年
	日本食低価格チェーンコメ消費回数	CF	CG*CO	575,190	123,778,800	回/年
	日本食低価格チェーン利用回数	CG	CH*CM	958,651	206,298,000	回/年
	外食回数	CH	CI*CJ*CK*CL	19,173,012	20,629,800,000	回/年
	人口	CI	-	21,887	23,550,000	人
	1日あたり食事回数	CJ	-	3.0	3.0	回/日
	外食率	CK	-	80%	80%	%
	年換算	CL	-	365	365	日/年
	日本食低価格チェーン利用率	CM	-	5%	1%	%
	日本食低価格チェーンコメ使用メニュー消費率	CN	-	60%	60%	%
	日本食低価格チェーン1食あたりコメ消費量	CO	-	0.070	0.070	kg/回
	日本食低価格チェーンジャポニカ米比率	CP	-	100%	100%	%
	日本食低価格チェーン日本産米比率	CQ	-	0%	0%	%
	現地系日本食店日本産米消費量	CR	CS*DF	376	404,344	kg/年
	現地系日本食店ジャポニカ米消費量	CS	CT*DE	37,579	40,434,408	kg/年
	現地系日本食店コメ消費量	CT	CU*DE	46,974	50,543,010	kg/年
	現地系日本食店コメ消費回数	CU	CV*DD	671,055	722,043,000	回/年
	現地系日本食店利用回数	CV	CW*DB	958,651	1,031,490,000	回/年
	外食回数	CW	CX*CY*CZ*DA	19,173,012	20,629,800,000	回/年
	人口	CX	-	21,887	23,550,000	人
	1日あたり食事回数	CY	-	3.0	3.0	回/日
	外食率	CZ	-	80%	80%	%
	年換算	DA	-	365	365	日/年
	現地系日本食店利用率	DB	-	5%	5%	%
	現地系日本食店コメ使用メニュー消費率	DC	-	70%	70%	%
	現地系日本食店1食あたりコメ消費量	DD	-	0.070	0.070	kg/回
	現地系日本食店ジャポニカ米比率	DE	-	80%	80%	%
	現地系日本食店日本産米比率	DF	-	1%	1%	%

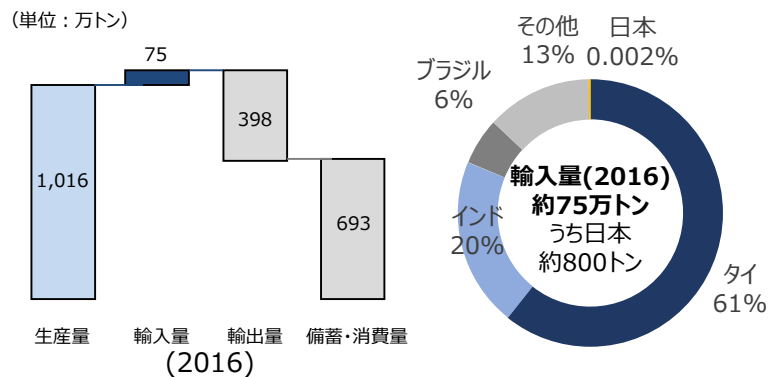
※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_台湾 (4/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人		単位
				値	値	
	中華・現地料理店日本産米消費量	DG	DH*DU	0	0	kg/年
	中華・現地料理店ジャボニカ米消費量	DH	DI*DT	39,239	156,522	kg/年
	中華・現地料理店コメ消費量	DI	DJ*DT	784,788	156,522,366	kg/年
	中華・現地料理店コメ消費回数	DJ	DK*DS	11,211,258	2,236,033,800	回/年
	中華料理店利用回数	DK	DL*DQ	16,016,083	3,194,334,000	回/年
	外食回数	DL	DM*DN*DO*DP	26,693,472	3,992,917,500	回/年
	人口	DM	-	37,504	5,610,000	人
	1日あたり食事回数	DN	-	3	3	回/日
	外食率	DO	-	65%	65%	%
	年換算	DP	-	365	365	日/年
	中華・現地料理店利用率	DQ	-	60%	80%	%
	中華・現地料理店コメ使用メニュー消費率	DR	-	70%	70%	%
	中華・現地料理店1食あたりコメ消費量	DS	-	0.070	0.070	kg/回
	中華・現地料理店ジャボニカ米比率	DT	-	5%	0.1%	%
	中華・現地料理店日本産米比率	DU	-	0%	0%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

米国コメ市場概要



生産・輸入・消費動向

- 年間のコメ備蓄・消費は約700万トン。コメの輸出国であり、輸入量は輸出量に比して少ない。主な輸入先はタイ・インドで、日本からの輸入は1%未満に留まる

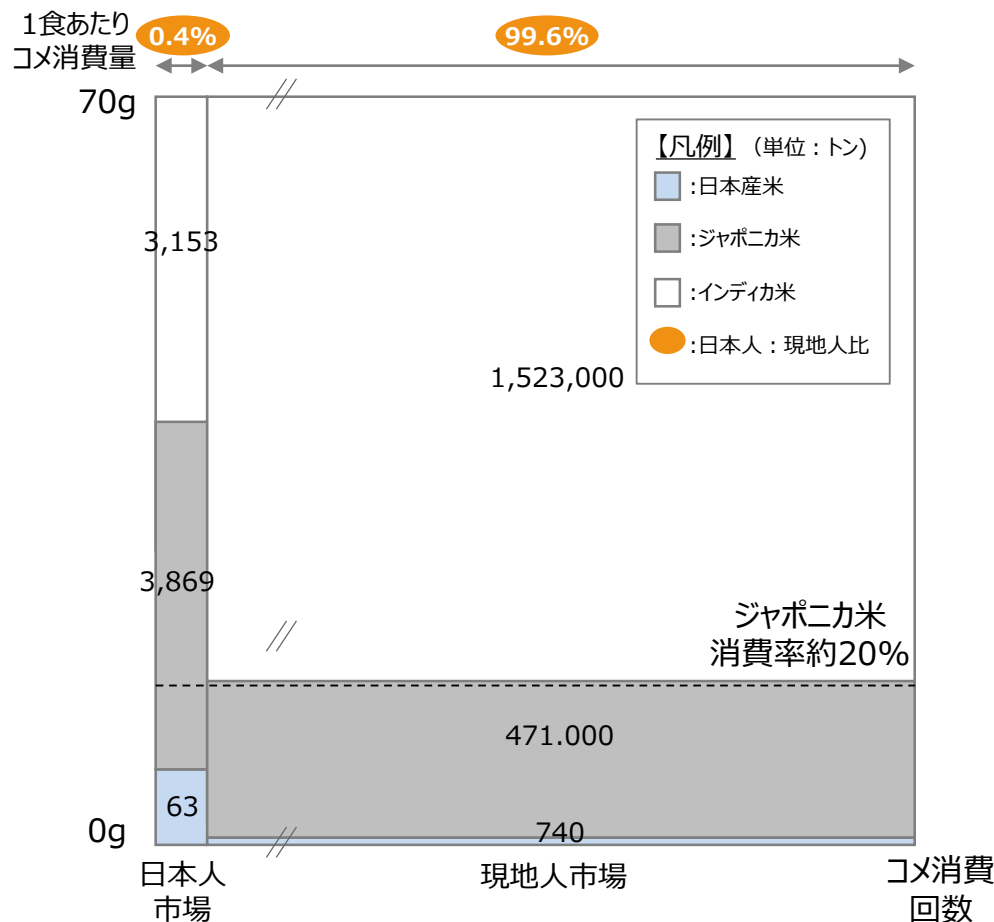
食習慣

- ジャポニカ米・インディカ米比率 = 20:80 (推定)
  - 主にコメは南部のメキシコ系住民が消費
  - 日本産米は主に物流・流通構造の観点から東西海岸で消費されているものと推定
- 外食・中食・内食比率 = 30:30:40 (推定)

外食・小売市場における日本産米の取扱

- 【小売】
- 沿岸部の一部の日系スーパーやインポート食品を扱う小売店を中心に販売されているものと推測
- 【外食】
- 現地系の総合日本食・アジア圏料理店として展開する店舗が中心

米国(東西海岸)におけるコメ消費動向推計(2016)

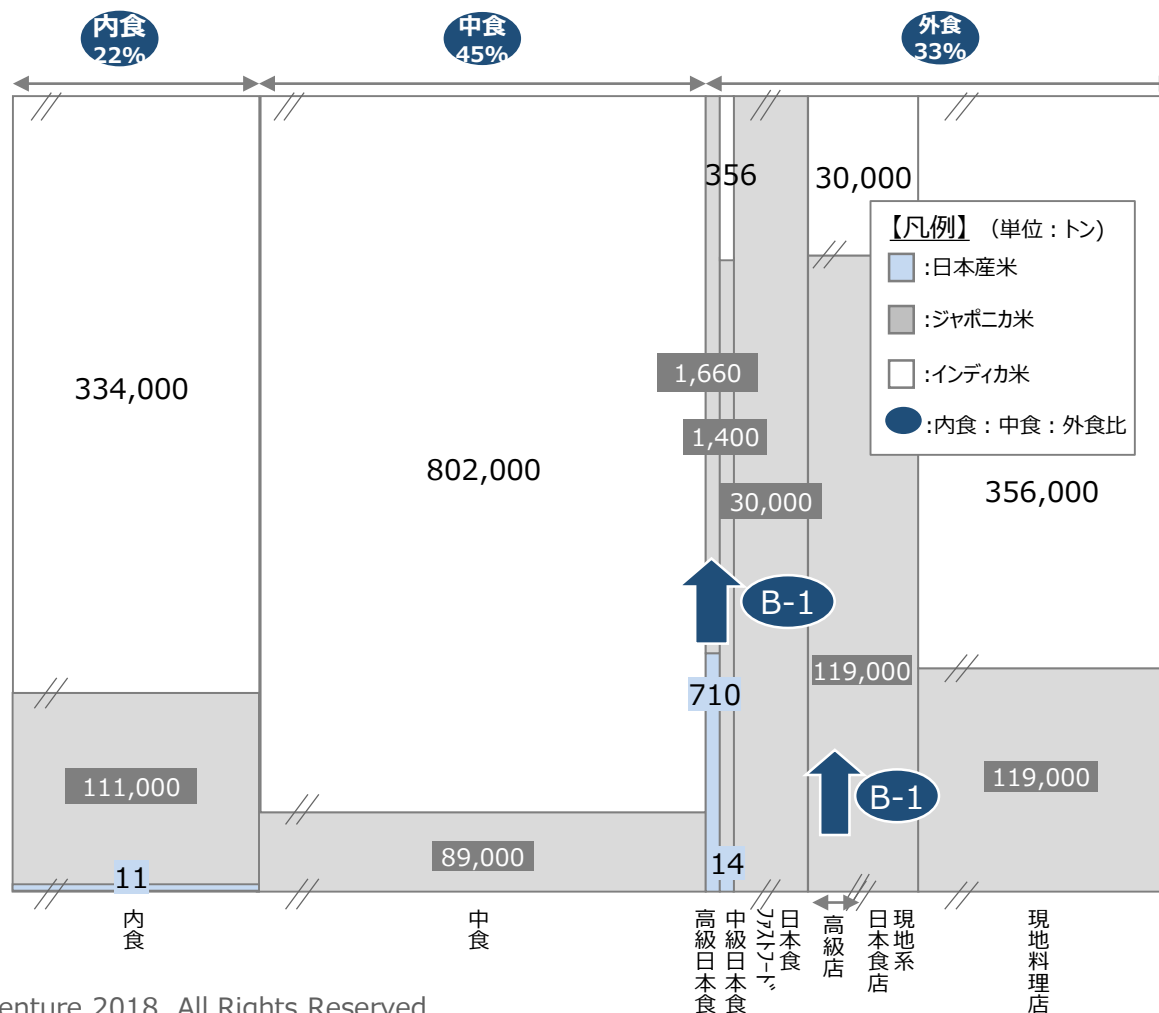


日本産米の輸出拡大に向けては、市場規模の大きい、現地人市場の拡大に優先して取組むべき  
→現地人市場について次ページにて詳細化

※ 日本産米が主に消費されると考えられる東西海岸を対象に推計を行った  
東海岸11州・西海岸5州

総じて現地産米の品質・価格競争力が高く、高級日本食店で取り扱いを維持・拡大することに注力。併せて、米国のコメ市場に関しては、十分な既存公知調査がなく、消費地域・セグメントについて情報不足今後、販路開拓と合わせて市場の理解が必要。

米国(東西海岸)現地人コメ消費動向(2016)



B. 日本産米取扱率の増加

B-1

- 【高級日本食店ででの取扱拡大】(安定)
- 消費量に鑑みて、高級店でさえ日本産米の取扱が少ないと考えられる。価格・供給体制等の課題・ニーズを調査しつつ、日系の高級日本食店への売り込みが必要ではないか

# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_米国 (1/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	米国人	単位
				値	値	
全体	日本産米消費量	A	D+Q+AF	63	738	t/年
	ジャポニカ米消費量	B	E+R+AG	3,932	471,606	t/年
	コメ消費量	C	F+S+AH	7,085	1,994,184	t/年
内食	内食日本産米消費量	D	E*P	61,753	11,138	kg/年
	内食ジャポニカ米消費量	E	F*O	3,087,658	111,382,031	kg/年
	内食コメ消費量	F	G*N	3,859,573	445,528,125	kg/年
	コメ内食コメ消費回数	G	H*M	55,136,754	6,364,687,500	回/年
	内食回数	H	I*J*K*L	137,841,885	63,646,875,000	回/年
	人口	I	-	419,610	193,750,000	人
	1日あたり食事回数	J	-	3	3	回/日
	内食率	K	-	30%	30%	%
	年換算	L	-	365	365	日/年
	内食1回あたりコメ消費率	M	-	40%	10%	kg
	1回あたり内食コメ消費量	N	-	0.070	0.070	kg
	内食ジャポニカ米比率	O	-	80%	25%	%
	内食日本産米率	P	-	2%	0%	%
中食	中食日本産米消費量	Q	R*AB	0	0	kg/年
	中食ジャポニカ米消費量	R	S*AC	192,979	89,105,625	kg/年
	中食コメ消費量	S	U*AD	1,929,786	891,056,250	kg/年
	中食コメ消費回数	U	V*AB	27,568,377	12,729,375,000	回
	中食消費回数	V	W*X*Y*Z	137,841,885	63,646,875,000	回/年
	人口	W	-	419,610	193,750,000	人
	1日あたり食事回数	X	-	3	3	回/日
	中食率	Y	-	30%	30%	回/日
	年換算	Z	-	365	365	日/年
	中食コメ消費率	AB	-	20%	20%	%
	中食1つあたりコメ量	AC	-	0.070	0.070	kg
	中食ジャポニカ米比率	AD	-	10%	10%	%
	中食日本産米比率	AE	-	0%	0%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計



《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_米国 (2/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	米国人	単位
				値	値	
外食	外食日本産米消費量	AF	AI+AX+CC+CC+CR+DG	1,575	727,102	kg/年
	外食ジャボニカ米消費量	AG	AJ+AY+CD+CD+CS+DH	651,496	271,118,715	kg/年
	外食コメ消費量	AH	AK+BA+CE+CE+CT+DI	1,295,530	657,599,513	kg/年
	高級日本食レストラン日本産米消費量	AI	AJ*AW	1,544	712,845	kg/年
	高級日本食レストランジャボニカ米消費量消費量	AJ	AK*AV	5,146	2,376,150	kg/年
	高級日本食レストランコメ消費量	AK	AL*AV	5,146	2,376,150	kg/年
	高級日本食レストランコメ消費回数	AL	AM*AU	73,516	33,945,000	回/年
	高級日本食レストラン利用回数	AM	AN*AS	91,895	42,431,250	回/年
	外食回数	AN	AO*AP*AQ*AR	183,789,180	84,862,500,000	回/年
	人口	AO	-	419,610	193,750,000	人
	1日あたり食事回数	AP	-	3	3	回/日
	外食率	AQ	-	40%	40%	%
	年換算	AR	-	365	365	日/年
	高級日本食レストラン利用率	AS	-	0.05%	0.05%	%
	高級日本食レストランコメ使用メニュー消費率	AT	-	80%	80%	%
	高級日本食レストラン1食あたりコメ消費量	AU	-	0.070	0.070	kg/回
	高級日本食レストランジャボニカ米比率	AV	-	100%	100%	%
	高級日本食レストラン日本産米使用率	AW	-	30%	30%	%
	中級日本食レストラン日本産米消費量	AX	AY*BM	31	14,257	kg/年
	中級日本食レストランジャボニカ米消費量消費量	AY	BA*BL	3,088	1,425,690	kg/年
	中級日本食レストランコメ消費量	BA	BB*BL	3,860	1,782,113	kg/年
	中級日本食レストランコメ消費回数	BB	BC*BK	55,137	25,458,750	回/年
	中級日本食レストラン利用回数	BC	BD*BI	183,789	84,862,500	回/年
	外食回数	BD	BE*BF*BG*BH	183,789,180	84,862,500,000	回/年
	人口	BE	-	419,610	193,750,000	人
	1日あたり食事回数	BF	-	3	3	回/日
	外食率	BG	-	40%	40%	%
	年換算	BH	-	365	365	日/年
	中級日本食レストラン利用率	BI	-	0.1%	0.1%	%
	中級日本食レストランコメ使用メニュー消費率	BJ	-	30%	30%	%
	中級日本食レストラン1食あたりコメ消費量	BK	-	0.070	0.070	kg/回
	中級日本食レストランジャボニカ米比率	BL	-	80%	80%	%
中級日本食レストラン日本産米使用率	BM	-	1%	1%	%	

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_米国 (3/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人		単位
				値	値	
	日本食低価格チェーン日本産米消費量	CC	CD*CQ	0	0	kg/年
	日本食低価格チェーンジャポニカ米消費量	CD	CE*CP	192,979	29,701,875	kg/年
	日本食低価格チェーンコメ消費量	CE	CF*CP	192,979	29,701,875	kg/年
	日本食低価格チェーンコメ消費回数	CF	CG*CO	2,756,838	424,312,500	回/年
	日本食低価格チェーン利用回数	CG	CH*CM	5,513,675	848,625,000	回/年
	外食回数	CH	CI*CJ*CK*CL	183,789,180	84,862,500,000	回/年
	人口	CI	-	419,610	193,750,000	人
	1日あたり食事回数	CJ	-	3.0	3.0	回/日
	外食率	CK	-	40%	40%	%
	年換算	CL	-	365	365	日/年
	日本食低価格チェーン利用率	CM	-	3%	1%	%
	日本食低価格チェーンコメ使用メニュー消費率	CN	-	50%	50%	%
	日本食低価格チェーン1食あたりコメ消費量	CO	-	0.070	0.070	kg/回
	日本食低価格チェーンジャポニカ米比率	CP	-	100%	100%	%
	日本食低価格チェーン日本産米比率	CQ	-	0%	0%	%
	現地系日本食店日本産米消費量	CR	CS*DF	0	0	kg/年
	現地系日本食店ジャポニカ米消費量	CS	CT*DE	257,305	118,807,500	kg/年
	現地系日本食店コメ消費量	CT	CU*DE	321,631	148,509,375	kg/年
	現地系日本食店コメ消費回数	CU	CV*DD	4,594,730	2,121,562,500	回/年
	現地系日本食店利用回数	CV	CW*DB	9,189,459	4,243,125,000	回/年
	外食回数	CW	CX*CY*CZ*DA	183,789,180	84,862,500,000	回/年
	人口	CX	-	419,610	193,750,000	人
	1日あたり食事回数	CY	-	3.0	3.0	回/日
	外食率	CZ	-	40%	40%	%
	年換算	DA	-	365	365	日/年
	現地系日本食店利用率	DB	-	5%	5%	%
	現地系日本食店コメ使用メニュー消費率	DC	-	50%	50%	%
	現地系日本食店1食あたりコメ消費量	DD	-	0.070	0.070	kg/回
	現地系日本食店ジャポニカ米比率	DE	-	80%	80%	%
	現地系日本食店日本産米比率	DF	-	0%	0%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

# 《参考》各国コメ消費動向分析\_計算シート\_米国 (4/4)

分類	項目	記号	計算式	日本人	米国人	単位
				値	値	
	中華・現地料理店日本産米消費量	DG	DH*DU	0	0	kg/年
	中華・現地料理店ジャボニカ米消費量	DH	DI*DT	192,979	118,807,500	kg/年
	中華・現地料理店コメ消費量	DI	DJ*DT	771,915	475,230,000	kg/年
	中華・現地料理店コメ消費回数	DJ	DK*DS	11,027,351	6,789,000,000	回/年
	中華料理店利用回数	DK	DL*DQ	110,273,508	67,890,000,000	回/年
	外食回数	DL	DM*DN*DO*DP	183,789,180	84,862,500,000	回/年
	人口	DM	-	419,610	193,750,000	人
	1日あたり食事回数	DN	-	3	3	回/日
	外食率	DO	-	40%	40%	%
	年換算	DP	-	365	365	日/年
	中華・現地料理店利用率	DQ	-	60%	80%	%
	中華・現地料理店コメ使用メニュー消費率	DR	-	10%	10%	%
	中華・現地料理店1食あたりコメ消費量	DS	-	0.070	0.070	kg/回
	中華・現地料理店ジャボニカ米比率	DT	-	25%	25%	%
	中華・現地料理店日本産米比率	DU	-	0%	0%	%

※公知情報・現地調査等を元にアクセントチャ推計

## 《参考》 主要パラメータのデータソース

項目	国・地域	ソース	URL
コメ消費量	香港	• FAO 統計	<a href="http://www.fao.org/faostat/en/#home">http://www.fao.org/faostat/en/#home</a>
	シンガポール	• FAO 統計	<a href="http://www.fao.org/faostat/en/#home">http://www.fao.org/faostat/en/#home</a>
	中国	• 中国におけるジャポニカ米の生産・流通動向(農水省)	<a href="http://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kaigai_nogyo/k_syokuryo/pdf/h25asia-china2.pdf">http://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kaigai_nogyo/k_syokuryo/pdf/h25asia-china2.pdf</a>
	台湾	• 台湾のコメをめぐる動向(農水省)	<a href="http://www.maff.go.jp/primaff/kanko/review/attach/pdf/170915_pr79_04.pdf">http://www.maff.go.jp/primaff/kanko/review/attach/pdf/170915_pr79_04.pdf</a>
	米国	• 生産量と消費量で見る世界の米事情(農水省)	<a href="http://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1601/spe1_02.html">http://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1601/spe1_02.html</a>
コメ輸出入量	共通	• 財務省貿易統計(国別品別表)	<a href="http://www.customs.go.jp/toukei/info/tsdl.htm">http://www.customs.go.jp/toukei/info/tsdl.htm</a>
内食・外食比率	香港	• 香港における輸入米の規制等に関する実態について	<a href="http://zenbeiyu.com/pdf/hongkong_kome_2015.pdf">http://zenbeiyu.com/pdf/hongkong_kome_2015.pdf</a>
	シンガポール	• 家計調査(シンガポール統計局)	<a href="https://www.singstat.gov.sg/statistics/browse-by-theme/household-expenditure-survey">https://www.singstat.gov.sg/statistics/browse-by-theme/household-expenditure-survey</a>
インディカ米・ジャポニカ米消費比率	香港	• 平成 22 年度香港における米市場調査(JETRO)	<a href="https://www.jetro.go.jp/ext_images/jfile/report/07000578/honbun.pdf">https://www.jetro.go.jp/ext_images/jfile/report/07000578/honbun.pdf</a>
	シンガポール	• 日本産米の輸出市場としてのシンガポール消費者の米購買の意識・行動に関する一考察	<a href="http://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2010871277.pdf">http://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2010871277.pdf</a>
	中国	• 中国におけるジャポニカ米の生産・流通動向(農水省)	<a href="http://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kaigai_nogyo/k_syokuryo/pdf/h25asia-china2.pdf">http://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kaigai_nogyo/k_syokuryo/pdf/h25asia-china2.pdf</a>
	米国	• 米国・英国における日本産米の流通構造・消費実態調査(JETRO)	<a href="https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Reports/02/2016/d5fb011ca6614cc4/rice2016_rev.pdf">https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Reports/02/2016/d5fb011ca6614cc4/rice2016_rev.pdf</a>

- 外務省HP
- ジェトロHP
- FAO 統計データ
- 平成22年度 香港における米市場調査 (ジェトロ)
- 米国・英国における 日本産米の流通構造・消費実態調査 (ジェトロ)
- 中国・上海の日本食市場の現状 (ジェトロ)
- シンガポールにおける日本食レストランの出店状況及び日本食材の流通状況調査 (ジェトロ)
- 香港における輸入米の規制等に関する実態について 調査研究事業 報告書【概要版】 (全米輸)
- 台湾における輸入米の規制等に関する実態について 調査研究事業 報告書 (全米輸)
- 国・地域別の農林水産物・食品の輸出拡大戦略 (農水省)
- 生産量と消費量で見る世界の米事情 (農水省)
- 台湾のコメをめぐる動向 (農水省)
- 中国におけるジャポニカ米の生産・流通動向 (農水省)
- コメ、コメ加工品の輸出動向 (米穀安定供給確保支援機構)
- 日本産米輸出事業の紹介「現地精米による市場の拡大」(クボタ)
- 十六アジアレポート 2015 年 11 月号 (十六銀行)
- 世界で一番コメを食べているのはどこの国？ (トリップアドバイザー)
- 香港人の外食についての意識調査。味より価格！ (HK BUSINESS SOLUTION)
- 香港の日本食レストラン事情 (西日本シティ銀行)
- 日本経済新聞

等